

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人



# ぼくのまち、わたしのまちを紹介します！ 第1回 好きっちゃ折尾東

令和元年7月13日（土）9：00～15：30 @折尾東市民センター



地域力！地域愛！たっぷりの折尾東！！  
このまちの魅力がどんどん出てきます！！  
このまちの子ども達を育むため、多くの大人たちが  
それぞれの熱い想いをもって一丸となっています！  
伝統あるものや変わっていくもの。  
これらもこのまちの子ども達に伝え、これからのまちを  
創っていくという想いを感じました！



多くの大学生が協力いただき盛り上げてくれました！子ども達の育みに多くの大人たちが関わって、このまちの様々な魅力だけでなく「このまちの人たちが好き」という感情も育まれるものと思います。



## ぼくのまち、わたしのまちを紹介します！ 第1回 好きっちゃ葛原

令和元年7月20日（土）9：30～12：00 @葛原市民センター



台風の影響に配慮し、終日の活動予定を屋内のみの半日に急きょ変更した。

子ども達を輪に包んでハイタッチの自己紹介から開始し、この事業のこのまちの中で温かく育まれる構図を感じた。

「このまちのことは、このまちの人に聞く！」ということで

Q&A方式や、重要部分の板書・復唱など飽きない展開に

努めた。また、久保田氏考案の地図でのパズルゲームは

まちの新旧を楽しく感じるものとなった。



子ども達は終始熱心に聞きメモをとっており、このまちへの関心の高さを感じた。屋内のみの講座形式となったが、地域の大人たちがまちの魅力を伝えたいという想いをとても感じた温かい講座となった。



## ぼくのまち、わたしのまちを紹介します！ 第2回 好きっちゃん葛原

令和元年8月24日（土）9：30～15：00 @葛原市民センター&校区内



第2回講座は、実際にまちを見てみよう！

第1回講座で聞いた様々な話を実際に現地を訪れて感じます。

地元のことは地元の人に聞く！インターネットで検索しても出てこない  
その場所・その人ならではの話をたくさん聞きました！

昼食は地域の皆さんにご準備いただいた流しそうめん！天気も良く、  
楽しく美味しい昼食となりました！

昼からは自慢シートの作成・発表の練習。ふり返しを行った後は  
それぞれの担当を決めて、更に皆さんに教えてもらいながらまとめて  
いきました。詳しく記載しすぎて時間がかかりすぎてしまう子も・・・  
自分なりの我がまち自慢が準備できました！

来週！折尾東の皆さんをこのまちにお招きします！！



何度も行ったことのある場所でも、詳しい人からより深く教えてもらうことで驚きがたくさん！  
自分なりの自慢資料づくりを通じて、より一層の理解の深まりと愛着がわいたものと感じました！



# ぼくのまち、わたしのまちを紹介します！ 第2回 好きっちゃん折尾東

令和元年8月24日（土）9：00～15：00 @オリオンプラザ



第1回目講座でたっぷり学んだこのまちの魅力について、①堀川、②折尾神楽、③JR折尾駅・東筑軒、④地域通貨オリオンの4つのグループに分かれて、自慢資料の作成をした。改めて、地域の方々に色んなことを教わり、自分達なりの自慢シートが着々と完成しました！

グループごとでの発表練習は少しずつ上手になっていきました！

助っ人大学生は子ども達と一緒に大活躍！！

子ども達は一層、このまちへの愛着が高まったと思います！



画用紙で発表する場合（発表時間1人2～3分）

- ※ 3人で発表内容がかぶらないように話し合う。
- ※ 絵を描く前に、読み文を作って、読み文に合った絵を描く。
- ※ 絵は離れた所からでも見えるように大きく描く。

表面

タイトル

絵

裏面（読み文）

自己紹介  
〇〇小学校〇年の  
△△△△である。  
私は×××について  
発表します。

←油性マーカーで書く裏の付け方。  
えん筆で大丈夫です。

自分達なりにこのまちの魅力をまとめました。写真や絵などを上手に活用して、素晴らしい自慢シートになりました。若い！明るいエネルギーの大学生たちが大活躍！まさに若者よそ者効果が発揮されました！



# ぼくのまち、わたしのまちを紹介します！ 第3回 好きっちゃん葛原（折尾東⇒葛原）

令和元年8月31日(土) 9:00~15:00 @葛原市民センター&校区内



折尾からJR  
で葛原へ！

安部山公園駅  
も特徴的！

いよいよ  
初対面！



葛原八幡神社の鳥居でご対面！葛原のまちを皆さんに紹介します！  
長く雰囲気のある神社の参道をみんなで歩きました。  
葛原の子ども達から、神社の歴史や特徴、和気清麻呂のこと、  
天井絵のことなどを大きな声で紹介しました！  
葛原の地名の由来でもある葛を見てもらい、その成分や活用方法も  
紹介しました！小学校では学校自慢の大きな楠の木を紹介しました！  
昔のメイン通りである中津街道を一緒に歩き市民センターへ！  
地域の皆さんが朝早くから準備して下さったカレーを美味しく  
いただきました！昼食後は、大学生メンバーの進行で子ども達の  
親睦を深める『フルーツバスケット』名残惜しく2週間後に再会！



北九州市を西から東へ、雰囲気の違うまちにも神社と折尾神楽の繋がりもあり、両地域がまち自慢を通じて  
出会いました。最初はよそよそしかった子ども達もすっかり打ち解け、次回の折尾東編も楽しみです！



## ぼくのまち、わたしのまちを紹介します！ 第4回 好きっちゃ折尾東（葛原⇒折尾東）

令和元年9月14日（土）8：30～15：30 @折尾駅周辺



「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します！」企画の最終回。  
 今度は葛原の一行が折尾へ向かいました。電車に乗るにもドキドキ！  
 折尾駅で熱烈歓迎を受け、東筑軒の立ち売りも披露されました。  
 折尾高校にまち協手配のタクシーで異動し、堀川で運航していた本物の船を  
 見て堀川の歴史や機能を紹介しました。堀川に沿って歩き、今に残る伝統を  
 感じました。オリンプラザを移動し、変わっていく折尾駅の過去・現在・  
 未来について紹介しました。地域通貨オリオンの説明では九州共立大学の  
 学生と演劇にてその活用の場面が面白く紹介しました。折尾神楽の紹介では  
 本物の衣装などをお持ちいただき、直接手に取って芸能の素晴らしさを感じ  
 ることができました。名残り惜しいお別れの後、子ども達それぞれの顔写真と  
 自慢発表が記された「修了証ー北九州パスポート」が授与されました。

地域の魅力に深く触れ、学び、自慢をしてより深く愛着が湧いたものと思います。  
 2つのまちが地域自慢を通じて、地域愛・地域力を高め合いました。

NPO法人好きっちゃ北九州 令和元年度 活動報告

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人



好きっちゃ吉田探検隊！！  
令和元年！『初日の出』



あいにくの曇り空で、日の出こそ見えませんでした、  
新たな時代の夜明けを共有し、  
気持ちの良い景色が見渡せました！！



■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人

## 九州共立大学「共生社会を生きる」～環境と防災～

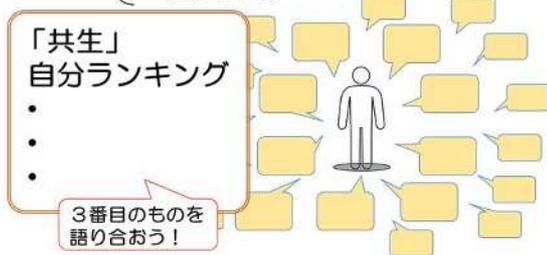


- 1 日時 令和元年5月21日（火）9:00～、10:40～（90分×2コマ）
- 2 場所 九州共立大学
- 3 参加者 九州共立大学 学生（一般科目）120人+140人=260人



### 共生って何だろう？

- 共生
- ・自然科学
  - ・人文科学
  - ・社会科学



### ④災害は、日常に潜む課題が浮かび上がる



今年度から『地域創造学科』が新設された共立大。一般科目「共生社会を生きる」は全学生が受講できる。15コマのうち、様々な外部講師がそれぞれの視点で共生社会について話を進める形式である。終始グループワーク形式で進行し、「共生とは？」という問いから始めて、身の回りのあらゆるものを見つめた。

自分の苗字について検討したり、正解のない問いに対し学生に考えていただいた。会場での反応以上にアンケートでは、それぞれの学生の考察に浸透していたことがうかがえた。

共生社会においても、環境と防災について着目し「地域・まち」を見つめる、「コミュニティ」の大切さ、「環境」と災害の関係について論じていき、最後にそれぞれの学生が今日からできることを考察した。

あらゆるものが共生している社会において、視点を変えて様々なものを見ることにより、その大切さや尊さを感じることができた。特に、まちやコミュニティに根差した考察を多くの学生からいただいた。

## 北九州高校『北九学』 これからの北九州を描こう！



- 1 日時 令和元年5月22日（水）10：50～11：50
- 2 場所 県立北九州高校
- 3 参加者 全校生徒500人



北九州高校の、北九学の講演依頼をいただき、「好きっちゃ北九州」としてとても光栄である。本講演は「グローバルな視点を持ち、地域で活躍する人材の育成」を目的としたものである。タイトルは『これからの北九州を描こう！』

全校生徒の高校生が3人ずつのグループをつくりグループディスカッション形式にて進行した。

- ①北九州弁選手権！
- ②自分のまちを紹介します！
- ③15年前と現在を比べると？
- ④これから、こんなまちになったら良いな。



各グループを回り、生徒の話を聞くと、問いが難しかった点もあるが、よく考えていただき、新たな視点や姿勢を感じてくれたように思う。これからの未来を描いていくエネルギーを感じ、大きな力が生まれていくことを信じた。

一人ひとりの想いが集まると、新たなものを創っていくムーブメントになる。このまちへの愛着をもって自分の生活やまちを盛り上げていこうという人がより多くなることを期待したい。

# 市民カレッジ 地域カアップセミナー ～地域づくりとNPO～



- 1 日時 令和元年7月2日（火）10：00～12：00
- 2 場所 北九州市生涯学習総合センター
- 3 参加者 市民カレッジ受講生32人



**NPO × 地域**  
**『共』のネットワーク**

○官一民、公一私  
その間には？

○NPOのポジション

○地域が主役！  
みんなが主役！！

**ここで注意点！！！！**

**あくまで“支援”、主役にはならない**

【普段の生活での同様の例】

- お父さんがやってしまう夏休みの宿題
- 「心配だから・・・」「危ないから・・・」の親子
- 元気な学生達がいっぱい来たイベント
- 言いたいこといっぱい一方的な講演会 など・・・

**リーダーシップと  
ファシリテーションの違い**

【普段の生活での同様の例】

- ワマンすぎてみんな付いて来てない
- 想いが強すぎてこだわりすぎて
- 言い出したら誰も止められない・・・
- ほんわかああの人の周りは協力者いっぱい！ など

**『新しい公共』とは**

【普段の生活での同様の例】

- 公園の清掃 ○道路のゴミ ○学校での行事
- 防犯パトロール ○防災の取組み など・・・

**【持論展開】**

**私がNPOを始めた理由**

公(役所)では、達成できない課題が多い

小さく多様になる公(役所)

**自分のできることを、自分達のできることを  
社会やこのまちへ！**

**建設的なワークショップ**

人生100年、少子高齢化、大介護時代の到来

↓

地域包括ケアシステムの構築を急ぐ！

どんなテーマでも良いです。正解なし！  
どういった公共づくりが必要でしょうか？  
グループで上手に議論しましょう。

地域づくりとNPOの関連について、サブテーマとして「公共」分野の担い手について、市民カレッジでの講座依頼。好きっちゃんの活動をヒントに地域とNPOとの上手な関わり合いについて触れ、受講生は各地域での実践者であることから、協働や支援の関係づくりファシリテートについて考えていった。

官一民の対立2軸でなく、「共」の存在がますます重要になってくることに触れ、こうした存在意義を各地域でも明確に認識し大切にしてほしいと話した。

最後のワークショップでは、現在の重要課題である地域包括ケアシステムの構築について、共の領域を意識して議論・検討いただいた。

各地域での地域力を上げていくために、市内全域から参加されている市民カレッジ。概念的な難しいテーマであるにも関わらず、熱心に聴講・議論する姿勢に感激した。更なる地域力の高まりに期待したい。

## 九州共立大学「共生社会を生きる」



- 1 日時 令和元年10月10日(火) 9:00~、10:40~ (90分×2コマ)
- 2 場所 九州共立大学
- 3 参加者 九州共立大学 学生(一般科目) 122人+87人=209人



<p><b>好きっちゃん折尾東! 共立大生! 大活躍!!</b></p>	<p><b>共生社会・・・テーマの設定</b></p> <p>スーパープレゼンテーション TED</p> <p>『ムーブメントの起こし方』</p> <p>約3分間のムービーをご覧ください!</p> <p>つまり、賛同する or 傍観する にしても 皆さんは、ムーブメントや社会構成員の一員です!</p>	<p><b>共生社会ディベート</b></p> <p>ディベートとは、『討論』のこと。</p> <p>自分の意見を主張してください。 意見とは反対のウソも大歓迎! 結論ではなく、議論の中身が重要です。</p> <p>今日の問いには、<u>正解はありません。</u> どちらでも良いです! 間にあることが重要だったりします。</p>
<p><b>共生社会ディベート</b></p> <p>③「若者支援策は？」</p> <p>年金や医療費など高齢者支援策も課題。 消費税がついに10%になりました。 増税分は保育料無償化に充てられます。 子育て支援のひとつです。それなら いっそ高校や大学も無償化してほしい。</p> <p>【保育料無償化】 or 【授業料無償化】 (基礎算数の情報はイメージして☆)</p>	<p><b>共生社会ディベート</b></p> <p>⑤「町内会どうしましょう？」</p> <p>ウチの町内会は昔は子どもも多く賑わったけど、 今じゃ高齢者ばかりで役員のなり手がいない。 町内会費の支払いや役員の負担ばかりが多くて 役員の順番が来るのがイヤだから、次々と町内会 を辞めています。他の地区では町内会ごと無くして いるところもあるようで、特に問題はないそう。 でもコミュニティが無くなるのも心配・・・</p> <p>【町内会続ける】 or 【町内会廃止】 (周囲の状況等はイメージして☆)</p>	<p><b>今日のまとめ</b></p> <p>私の『共生社会を生きる』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●今日のディベート課題は社会テーマのひとつ結論じゃなくて間にあることこそ重要?</li> <li>●意見が大きくも小さくも社会参画の一員に!</li> <li>●想うだけでも、ムーブメントの一歩目!</li> <li>●これからの北九州を、ともに盛り上げましょう!</li> </ul>

前期に続き、後期も1コマ担当させていただいた『共生社会を生きる』

導入の活動紹介では共立大の学生が活躍していることも紹介し、冒頭ではムーブメントを起こすにはフォロワーシップが必要だというプレゼンテーションムービーを見た。共感することや、少しでも想いを抱くことが、ムーブメントや社会構成の一員になっていることを印象付けた。

主に、グループディスカッションでのディベート形式で進行した。

賛否両論になりそうな5問の社会課題を提起し、それぞれの意見を出し合っていた。

ディベート形式では、半強制的に学生を議論に参加してもらえるため、主体性は感じてもらったが、難しい問いに戸惑う場面や、議論に参画できていない様子も見られたが、それぞれ個別に話してみると自分なりに考えをもっていて、コミュニケーションを促すようにした。

社会での様々な場面や課題に対し、主体的な構成員のひとりとして、それぞれが意見や関心をもつことで、その想いの方向へと必ず進んでいくものとする。学生にはそれを実感していただく機会になったと思う。

NPO法人好きっちゃ北九州 令和元年度 活動報告

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人

## ESD人材育成プロジェクト【北九州ESD協議会コラボ企画】 市民センター館長選択制研修 『地域づくりのキーパーソン育成研修』



- 1 日時 令和元年11月29日（日）14:00～17:00
- 2 場所 北九州市生涯学習総合センター
- 3 参加者 市民センター館長111人、社会教育主事・主事補16人、市役所・協議会関係者10人



各地域での活動において、ESDの普及を目指すにあたり、「何をして良いかわからない」「ESDとは」という課題があり、各地域でのESD活動実践者を育成するプロジェクトである。

選択制の市民センター館長研修の1枠をいただき研修を行った。今回は、ESDの企画そのものではなく、地域での人が繋がり、活動が発展していくための素地である『協働』について突き詰めた研修とした。

これまで「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業を実践してきた4名の館長にご登壇いただき、実施の感想や協働が生まれたときの話を展開していただいた。それを「話題提起」とした上で、4～5名のグループでそれぞれの経験やノウハウを共有していただいた。

グループディスカッションと全体討議を交互に織り交ぜ、会場全体での質問や意見交換を行うシンポジウム形式を取り入れた。まちづくり協議会が主体的に関わるためのコツや、職員の士気を上げるための館長と職員との関係づくりなど、踏み込んだ質問も出た。

「協働」をつくるのは企画や方法論ではなく、長い時間をかけた人間関係や言葉の選び方など、心の持ちようや内面的・心理的要素が大きいとして、それぞれの参加者に「協働へのこだわり宣言」を付箋に書いていただき、会場全体でシェアした。



活気ある地域活動を目指すにおいて、人と人が協力し合うことが不可欠である。協働は簡単そうで難しい。これまで暗黙知的に実施されてきたノウハウも具現化することで、より協働のまちづくりが進むと考える。

# 福岡県地域づくりネットワーク北九州ブロック 好きっちゃわがまち!～過去に学び、未来を描く～



- 1 日時 令和元年12月1日(日) 10:00～12:15
- 2 場所 九州共立大学 深耕館 S210
- 3 参加者 47人



福岡県地域づくりネットワークから、郷土愛による地域づくりや、多世代交流、地域とNPOの関わりなどについて話してほしいとの依頼。コーディネーターである原賀さんがファシリテーショングラフィックを行った。

一方的な事例提供でなく、参加者どうしの交流も目的として以下のインスピレーショントークと全体討議を交互に行った。

- ①好きっちゃ事業の紹介
- ②地域の見つめ方
- ③若者参画・学生との協働
- ④あそぼうさいの紹介



参加者それぞれの活動フィールドがあり、見え方の違いや感じ方の違いを自由に意見交換できた。また、共立大学の学生達は活動をプレゼンし、学生からの意見も多めに交換することができ、まさに多世代交流の場となった。

最後にマグネットテーブルにより「これから取組みたいこと」を掲げて交流をしていただき、アウトプット・成果の残し方のコツでもあるとして、集合写真も撮影した。



地域づくりと一概に言っても、「地域活動」と「市民活動」と大別できる。それぞれの領域を認識し上手く連携することが重要とした。今回の会においては人材・ノウハウの交流が十分にできたと感じた。

## 第1回 ESD人材育成研修 『地域活動でのESD』～北九州の未来を創るキーパーソン～



- 1 日時 令和元年12月14日(土) 15:00~18:00
- 2 場所 まなびとESDステーション
- 3 参加者 45人



11月29日の市民センター館長研修に続く講座としての位置づけで、北九州ESD協議会からの依頼。

地域活動におけるESDが普及しきれていないという課題を捉え、市民センター館長等の地域活動者と、北九州のESDを牽引してきた市民活動者の多彩な方々に参加していただいた。



まず、地域活動と市民活動に大きく棲み分けただうえで、ESDが普及しきれていない現状認識をした。次に活動の主体は受け手であることを意図できるように活動や講座の投げ手と受け手の両面からそれぞれの活動内容を紹介し合った。全体共有をしながら、それぞれの活動のESDのポイントを考察していった。



最後に、『自分なりのESD』を一言でキーワードにするワークショップを行い、それぞれの活動領域から大切にしたい多彩なESDのキーワードが生まれ、ESDの樹に様々な実が成った。

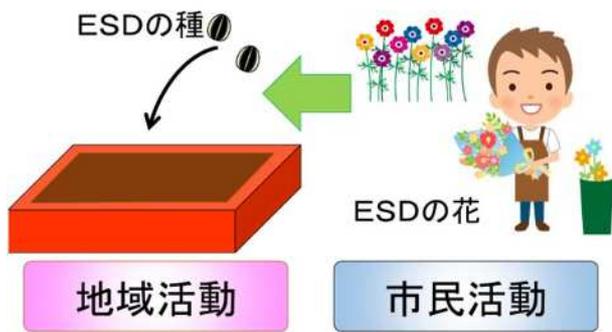
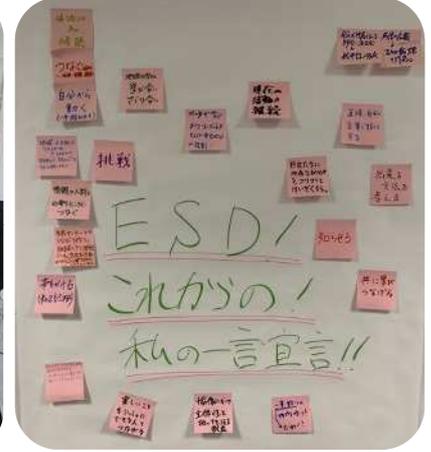


SDGs推進都市北九州の基礎を引っ張ってきたESD。10年以上、盛んに行われてきたこの分野でも、まだまだ課題はたくさんあり、『基本だけど新しい』講座を実施することができた。まち全体に多くのESDの花が咲くように、もっと繋がり、もっと進めていきたい。

## 第2回 ESD人材育成研修 各地域で『ESDの花』をもっともっと咲かせるには！？



- 1 日時 令和2年1月25日（土） 14：00～17：00
- 2 場所 まなびとESDステーション
- 3 参加者 25人



「自分なりのESD」をアウトプットした前回に続き自分事や、自分目線でのESDを感じる主体となる人材育成の研修となった。今回は、地域活動に焦点をあて、そこでいかにESDが普及できるかを考える。

市民活動の分野において、多くのESD実践者が北九州のESDを牽引されてきた。

地域はまさに土壌であり、地域住民らで種を植え、皆で育てることに地域活動の価値や面白さがあると思う。この両者がいかに協働し、新たな、多彩なESDの種から花を咲かせていくか・・・

当団体の活動内容をインスピレーショントークし、その後、ワールドカフェ形式の参加者どうしの交流時間を多く設けて、様々な人材の掛け合わせができた。

活動者と地域との協働のあり方に触れつつ、受入れる地域での課題とそれを克服するためのノウハウについて特筆して検討し、最後に、参加者それぞれのこれからのESDの取組みや想いを一言宣言していただいた。



3回シリーズの講座であり、①市民センター館長研修では地域住民の「協働」へのノウハウについて、②第1回研修では自分なりESDについて、③今回はESD実践者としての主体的な関わりについて、アンケートを拝見すると、実践者としての主体的な姿勢を印象に受ける。参加型の研修効果があった。

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人

# 筒井ESD推進いきいきシニア塾 ～好きっちゃ北九州活動概要の紹介～



- 1 日時 令和元年6月24日（火）10:00～12:00
- 2 場所 筒井市民センター
- 3 参加者 シニア塾生62人



様々な方面から定例的な学びの機会を楽しみにしている受講生の皆さん。穴生学舎での生涯学習から移行進化しているESD塾である。

2時間の講演形式で好きっちゃの活動を紹介した。前半は活動の様子を説明し、後半にはその意義や狙いを説明したが、学問的な難しくなる後半の内容ほど皆さんの学びの姿勢は強く、感激した。

自分のまちを外から見る視点において、北九州弁について考えてみると、人生経験豊富な皆さんにあっても、「これも北九州弁なん?」「言ってる」という声が多く、今後もアイスブレイクの手法に用いたいとの意見もあった。

結語には、今年度に策定された北九州市教育大綱に触れ、私たちの目指しているところが合致しており地域一体となった人づくりをしていこうとまとめた。

**北九州市教育大綱**  
～SDGの視点を踏まえたシビックプライドの育成～

- 北九州市の未来を担う子どもの育**  
① 多様な個性を認め育むこと  
② 多様な価値観を認め育むこと  
③ 多様な文化・言語・宗教・風土・習慣を尊重し育むこと
- 市全体で子どもの教育を支える5つの柱**  
1. 新たな個性を認め育むの育成  
2. 本市が誇る文化・芸術・スポーツ、歴史などの特性を活かした教育の推進  
3. 市民が主体的に参画し、協働する教育の推進  
4. 市民が主体的に参画し、協働する教育の推進  
5. 市民が主体的に参画し、協働する教育の推進
- 市民が主体的に参画し、協働する教育の推進**  
1. 市民が主体的に参画し、協働する教育の推進  
2. 市民が主体的に参画し、協働する教育の推進  
3. 市民が主体的に参画し、協働する教育の推進  
4. 市民が主体的に参画し、協働する教育の推進
- 「働き方改革」の推進**  
1. 働き方改革の推進  
2. 働き方改革の推進  
3. 働き方改革の推進  
4. 働き方改革の推進

令和元年6月10日  
北九州市長 北橋 健治

**北九州弁 選手権 !!**

【動詞系】 ～っちゃ ～ちよ ～ゆけ ～やち ～ち ～れー節句形 ～らんー節句形 ～ちー節句形 ～てんー節句形 ～よん/ふん ー進行形 ～とん/とん ー動作が完了	【名詞系】 せんーしな ほびてる ーふてくれる ○節句分 まだごす ー節句 ちよさい ーするい、セコイ 爪をつむ ー爪を切る しさる ーできる しちゆる ーゆってあげる かざる ー引っ掛かる かろう ーからう しかふる たう・たわん ー置く・置かない なおす ー片付ける なんかかる はわく ー置く
--	--

～事業の6つの特徴～

- 子どもが主役 体験型学習
- シビックプライド 郷土愛を育む
- 地域コミュニティ 共通のテーマ
- 録写し効果 区を超えた交流
- 第三者ファンリ よそ者効果
- 協働の まちづくり

豊かな学びによって、生き生きと過ごされている皆さんに、改めて生涯学習やESDの素晴らしさを実感することができた。また、活躍の場を楽しみにしている喜ばしい印象を受けた。

## NPOと大学生との交流会



- 1 日時 令和元年10月25日（金）18：30～20：30
- 2 場所 西日本工業大学地域連携センター
- 3 参加者 大学生45人、市民活動関係者15人



北九州市市民活動推進課の主催で  
大学生との協働団体としてお声かけいただいた。  
規模感や活動内容など、スゴイ団体ばかりで、  
私たちも刺激を受ける交流会となった。

- ・災害ボランティア「チーム北九州」
- ・学園&地域 交流 ネットワーク
- ・NPO法人 フードバンク北九州ライアゲイン
- ・NPO法人 日本ソーシャルスポレク協会
- ・NPO法人 わくわーく



NPOは、ミッション（目的）をもって組織する  
団体であり、それぞれの目標・特徴をもって活動  
していることを実感していただけたと思う。  
想いを集めて、できることからまちづくりを  
進めて、北九州全体の成果を上げていることを  
感じる事ができた。

後半は学生との意見交換で、様々な話題があがり  
私たちにとっても良い経験となった。

地域づくりやイベント開催にあたり、「若者の参画」は元気なマンパワーのエネルギーを得るのみならず、  
新しい風・若いアイデアを吹き込んでくれる。学生が参画しやすい団体運営を一層進めていきたい。

## FM KITAQ 『ライフシフト・カフェ』 ラジオ出演



- 1 日時 令和2年1月19日（日）16:00~17:00
- 2 場所 FM KITAQ
- 3 参加者 なし



【ライフシフトのテーマ】	NPO活動における、まちづくり・地域づくり・社会づくり なせ?
【大切にしていること 軸となるもの】	『共』の存在・意義（NPOや地域活動） （官-民や公-私の2極でなく） 具体的に
【直近1~2ヶ月間の行動とその気づき】	自分達で社会をつくる・彩る。 きっかけ 教訓? ・政治や行政、大企業任せではなく、小さくても細々とでも自分達なりの表現や活動で社会をつくっていかう。 ・「福岡県地域づくりネットワーク」や「ESD人材育成講座」を通じて。 主催イベントの準備 具体的に ・特に初開催となる「まちクエスト」。 地域のあり方や意義、協働の作り方など、試行錯誤中。
【これから数ヶ月の間にやりたいこと】	主催イベントの開催！ きっかけ 具体的に ・ESD人材育成講座（1/25） ・まちクエスト（2/8） ・あそぼうさい（2/22）
【将来ライフシフトしていきたいこと（計画）】	・まちづくり⇒社会づくり⇒時代づくり、自分のできる範囲で少しでも貢献したい。 どうやって ・子年にちなみ、子ども達を含めた未来づくり、共感の人の繋がりがづくりに努めたい。 これから?

「好きっちゃん応援団」でもある、丸山拓哉さんがパーソナリティーをされている、FM KITAQの『ライフシフト・カフェ』というラジオ番組にお声かけいただいた。隔週の日曜16時~生放送。

タイトルのとおり、ゲストの生活や活動の中でのこだわりや想いを汲み上げていく番組であり、上記表は事前のアンケートであり、この確認に仕掛けが見える。

テーマ⇒軸となるものの。現在だけでなく、最近（過去）から今後（未来）から将来への展望へと気付かなかった想いや大切にしたいものを具現化・可視化していくアプローチである。

丸山さんについては、こうした想いの具現化や、目標のアウトプット化をしかけるワークショップなどをいつも開催されてらっしゃる。

今回のラジオ出演を通して、改めて活動の意義や、自己表現の方向性を感じることができた。合わせて、喫緊のイベントも宣伝させていただいた。

想いやこだわりを、具現化・可視化していく、また表現していくというアウトプットへのアプローチはとても重要であり、有用だと改めて感じた。出演というより学び多き機会となった。

## H30年度NPO公益活動支援事業報告会



- 1 日時 令和2年2月4日（火）14：30～15：00
- 2 場所 コムシティ
- 3 参加者 市民活動推進課、審査員2名、傍聴者 計25人

支援をお願いする理由⇒『成長段階での支援』

### 【継続実施での課題3分野】



①【カネ】  
資金の充実

寄付者  
「好きっちゃん応援団」  
の拡大

②【ヒト】  
マンパワーの充実

大学生との連携



③【ノウハウ】  
マニュアルの充実

マニュアルの再整備  
⇒実務の時間コストの軽減



一過性のイベント投資ではなく、次年度以降の継続実施へ



平成30年度の吉田と祇園学童との好きっちゃん交流と、この事業の継続実施のための支援について助成いただいております。一年越しの報告会でのプレゼン。上記資料は、報告会でのまとめとなる本旨の部分である。一過性の資金援助でなく取組みを継続するための支援をいただいたという部分が要点である。

取組みを継続するために、ヒト・モノ・カネが必須であり、当団体のNPO活動においては、モノよりもノウハウ（知）だと考察し、その3要素にてまとめた。カネの部分においては、好きっちゃん応援団など多くの方から寄付をいただくことができた。また何よりも必要なヒトについては、活動を続けていくうちに協力者も増えてきており、特に大学生の参画はとても頼もしく嬉しいものである。私たちにとっても、地域にとっても、子ども達にとっても喜ばれる若いエネルギーの皆さんと引き続き大切に協働していきたい。

助成金をいただき、またこうした発表のアウトプットの場を通じて、自分達の団体の取組みの方向性を再考することができているように感じる。時点時点でしっかりと見つめながら、今後とも取り組んでいきたい。

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

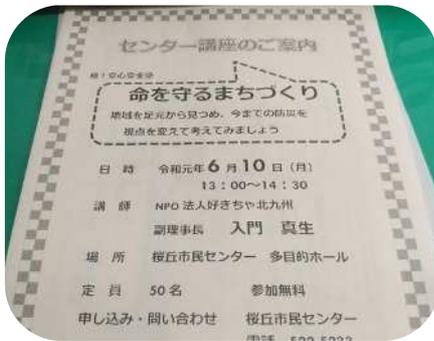
OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人

# 桜！安全安心塾 ～命を守るまちづくり～ 足元から自分のまちを見てみよう！



- 1 日時 令和元年6月10日（月）13：00～14：30
- 2 場所 桜丘市民センター
- 3 参加者 桜丘校区の住民 27人



このまちの地名を考える

## とみの 何で、富野？

とびの  
飛火野？

市民カレッジの受講をきっかけに依頼いただいた。  
既存のハザードマップでは、あまり危険性が示されていない  
桜丘校区。

以前に、地域カルテを実施していることもあり、  
まちの魅力や歴史が冊子にまとめられている。

延命寺川の流域は？

グループワークが馴染まない受講者が多いとの事前相談に  
より、基本的には講話形式にて進行する予定として、  
自然とおしゃべりや全体討議になるように進化した。  
上記写真のとおり、最終的には各班ごとに色んな話題が  
あがり、まさにグループディスカッションとなった。

住みやすい大好きなまち桜丘！  
このまちとともに、このまちを見つめ  
安心して暮らしていきましょう！

地名や地形から、このまちの特性を考えていき、  
それらが教えてくれるこのまちの向き合い方を考えていった。  
一緒に謎を解決しながら地域探訪する展開に  
参加住民らの興味関心を得たと感じる。

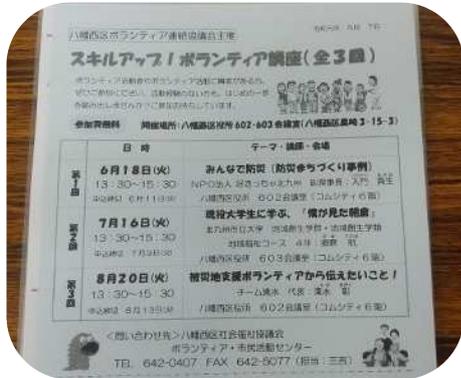
自分のまちをよく知っている桜丘を目指して  
一層このまちが発展していく意気込みを感じた。

災害や自然地形に恐れるばかりでなく、根本にあってほしい「このまちが好き」という感情。  
このまちとともに、生き生きと、安心して暮らしていけるように、まちと向き合って生活したい。

# 八幡西区社会福祉協議会 ボランティア講座 命を守る、防災まちづくり



- 1 日時 令和元年6月18日（火）13：30～15：30
- 2 場所 八幡西区社会福祉協議会（コムシティ）
- 3 参加者 八幡西区のボランティア 22人



社会福祉協議会の進めるボランティア育成に関する講座で、防災をテーマに3回講座の初回。

後の講師が災害現場をよく知る方々であり、災害発生前の防災の取組み、まちづくりとしての取組みについて特出して講座を行った。



市内各地での防災まちづくり事例の紹介については地名や地形などの地域の見つめ方や時間軸を考慮した対応の仕方、地域コミュニティでの取組みの重要性等を説明した。

受講者が各地に持ち帰って活動が広がるべく

5つの「あそぼうさい」を実施した。

- ①災害はどこに命中！？ボール投げ
- ②災害伝言ダイヤル171の体験！
- ③チャレンジ！無線機で情報を伝えよう！
- ④トイレットペーパーの芯に学ぶ！震源地はどこ！？
- ⑤災害『ぶたのしっぽ』ゲーム

まとめでは皆さんに『一言宣言』を記載いただいた。



活動が広がっていくためには、多くの実践者の育成が不可欠であり、こうした講座を通じて仲間が増えていくことは本当に嬉しい。体験を交えながらの楽しい講座になった。

松ヶ江南市民センター市民講座  
 大人の生涯学習 めだかの学校  
 このまちの大雨災害～地形を見つめよう～

令和元年6月19日（木）



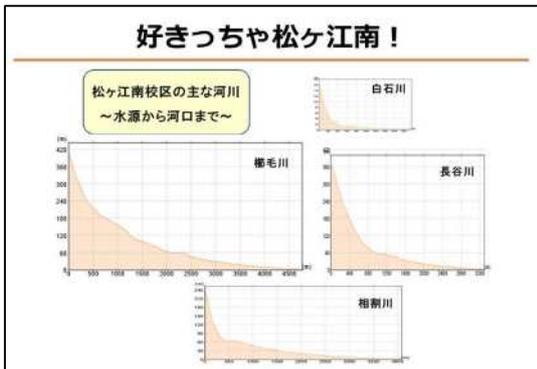
- 1 日時 令和元年6月19日（木）10：00～12：00
- 2 場所 松ヶ江南市民センター
- 3 参加者 松ヶ江南校区住民 48人



松ヶ江  
 恒見 ⇒ 津根見  
 吉志 ⇒ 岸

昨年7月の西日本豪雨の際、相割川の洪水と、  
 櫛毛川の決壊にて、多くの被害があったこのまち。

市民センター主催の生涯学習講座にて企画いただき、  
 自治会には回覧にて講座の宣伝をいただいたところ  
 予想の倍以上の参加をいただき関心の高さがうかがえる。



既に災害を間近に感じているこのまちであるが、  
 地名が海に由来していることから始め、金毘羅神社が  
 海の守り神として建立されている位置関係から  
 埋立地からみる現在の海岸線とは本来の地形が異なる  
 ことが分かる。



名前も知られていないような川の水源まで辿ると  
 多くの水が集まっていることや、先人たちの苦勞により  
 ため池が整備されており、その機能の大切さを感じた。

地形から想定される自然災害や、時間軸に沿った  
 対処方法などを受講者とともに検討を進めた。

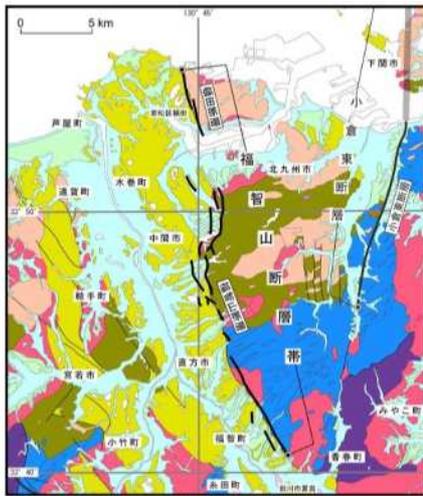
根本にある地域愛を感じつつ、有意義な講座となった。

自分たちのまちを見つめていくことにより、このまちで生活するための心得が見えてきた。  
 深刻な話題であるにも関わらず、受講者らは自分ごととしてしっかりと向き合っていたことに感銘を受けた。

# 『若松市民塾』 防災をテーマに見つめよう！ ～若松を、感情を、これまでとこれからを～



- 1 日時 令和元年6月26日（水）10：00～12：00
- 2 場所 若松区生涯学習センター
- 3 参加者 若松区全域からの塾生72人



若松区役所が事務局であるが、塾生たちの豊かな学びの場を継続する「若松市民塾」

出水期前に防災をテーマにした講座依頼。若松区全域からの参加であることや、受講生は各地域での活動実践者が多いということもあり持ち帰って実践できる内容を多く取り入れた。

まず、若松や自分のまちの好きなところを発表し合い、地域愛と防災が表裏一体であることを確認しこのまちの歴史や地名が何を継承しているのか順に考えていった。

最後に伝言ゲームの体験を実践し、協力者が増えるにつれ、情報が早く伝わっていくのを実感した。

感想を附箋に書いていただいたが、「地域での声かけ」が多く、今後の発展が期待できる。

## 北九州市内で唯一、東西に延びる山



歴史や伝統が溢れるまち若松。穏やかな暮らしのなかにも、自然や地形と向き合って、安心して生活したい。地域のコミュニティが何よりも重要で、受講者の今後への意欲も感じとることができた。

## 午前10時のサロンあしはら ～自分の命は、自分で守る～



- 1 日時 令和元年6月27日（木）10:00～12:00
- 2 場所 足原市民センター
- 3 参加者 足原校区住民64人



好きっちゃ足原！足立橋

- 何で黒原？
- ① 黒い土質の土地
  - ② 九郎丸さん大活躍
  - ③ クロ=小高い場所



好きっちゃ足原！妙見川



みんな de Bousai まちづくり推進事業により、足原校区防災計画を策定し、住民の情報伝達や毎年のBousai訓練を継続しているこのまち。

高齢女性が多く、いつも楽しみにしておられるサロンの場で、出水期前の防災の話題について依頼をいただいた。

それぞれの自宅の場所や形態によっても興味関心が異なると想定し、前半は地震、後半は大雨について講座を進行した。

グループワークには慣れていないとのことだったがおしゃべりやゲーム中心に話題を展開したことで皆さん上手に議論されていた。

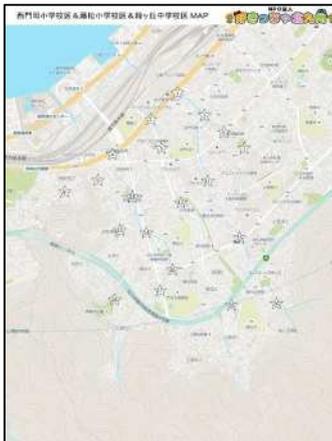
各家庭での備えや、大雨による早めの避難など、アンケートを拝見すると、それぞれ持ち帰れるものを得たように感じる。

自分のまちのことを順次掘り下げて考えていくことで、自分ごととして向き合える。またおしゃべりを通じて皆さんの意見を参考にしたり、発言することにより、自分の行動のきっかけにもなるように感じた。

# 緑丘中学校・藤松小学校・西門司小学校 3校合同家庭教育学級 『子どもたちの育つこのまちを知ろう！』～まずは足元、そこから防災～



- 1 日時 令和元年7月4日（木）10：00～12：00
- 2 場所 西門司市民センター
- 3 参加者 緑丘中学校区（藤松・西門司小学校区）住民・PTA 58人



中学校区に属する2つの小学校を合わせた3校合同の家庭教育学級で、西門司の地域の方々も追加参加いただいた。テーマは「このまちを見つめる」

初の机上探検隊形式で、A3の校区マップに魅力の候補地を示しておき、写真の場所を検討する。自分たちのまちのことも、詳細まで分からず、参加者どうして話し合う場面が見られた。



今回は、地域の特色や災害との関連がある場所をピックアップしており、順にストーリー立てて話していくと、参加者の興味関心も沸いてきたように感じた。



最後は、傾斜や川の多いこのまちで、「絶対に子どもを守るには？」という問いに対して、様々な議論が生まれ、「地域でも子は鎧」であり一致団結してこの難しい問いにチャレンジしていこうと雰囲気になった。

切実なテーマに関わらず、自分のまちの魅力と表裏一体の進行に、「楽しかった」の声が多く、自分達のまちで、自分達の子どもを守るんだ！という、このまちならではの取組みが生まれそうな予感がある。

## 老松市民センター防災まちづくり講座



- 1 日時 令和元年7月31日（水）13:30~15:30
- 2 場所 老松市民センター
- 3 参加者 老松地区の住民 18人



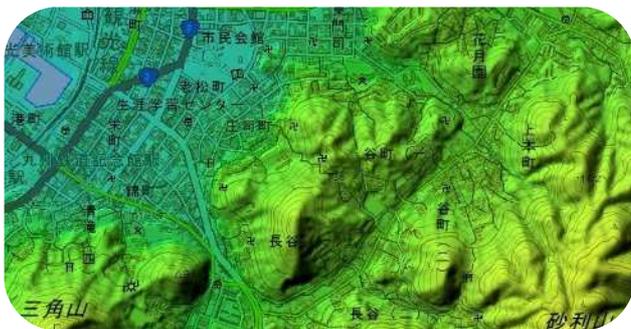
市民センターの生涯学習講座として開催。

1ヶ月後の2回連続講座として実施。

古野陽一さんと二人で担当する構成。

古野さんがファシリテート、入門がレクチャーという役割分担。まさに、地区Bousai会議のプレ事業のようなイメージで取り組んだ。

古野さんのファシリテートで話しやすい雰囲気づくりで展開した。

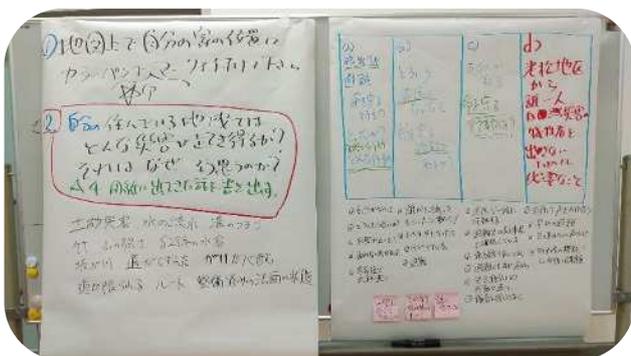


ハザードマップの明示の有無に関わらず、どの参加者も災害に対する認識は高く、それぞれに自分の行動を考えている部分や、逆に何もできていない自分に気付くことができたように感じた。

地名や地形の話から、このまちで備えるべきハザードはマップのとおりではないことを認識し、改めてこのまちを見つめていくことを話した。

そんな話から参加者からも、「ここには川があった」「この場所は水があふれたことがある」などの、この地での過去の状況をうかがうこともできた。

連続の第2回目講座が楽しみである。



災害や自然地形に恐れるばかりでなく、根本にあってほしい「このまちが好き」という感情。このまちとともに、生き生きと、安心して暮らしていけるように、まちと向き合って生活したい。

## 老松市民センター防災まちづくり講座

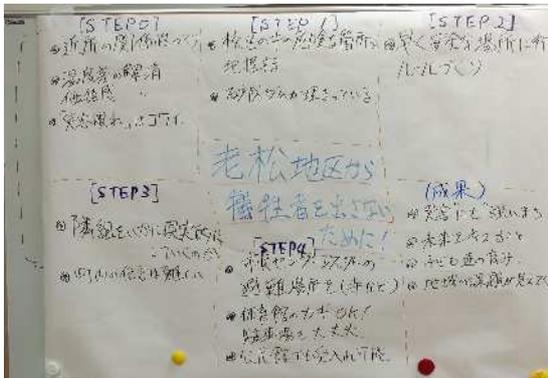


- 1 日時 令和元年8月26日（月）13:30~15:30
- 2 場所 老松市民センター
- 3 参加者 老松地区の住民 25人



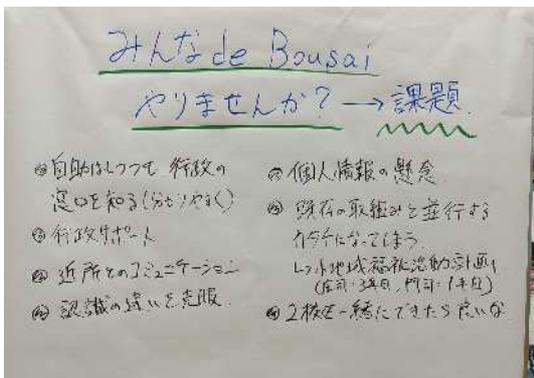
1ヶ月前の生涯学習講座からの続きとして開催。第1回から続けて参加いただいている方も多く、また今回初めて来たという方も多数おられた。

今回も、古野陽一さんと二人で担当する構成で、古野さんがファシリテート、入門がレクチャーという役割分担。序盤では前回話した内容も改めて説明し、参加者どうして前回講座を思い起こすワークから開始。



地区Bousai会議に進んでいくイメージで、それぞれの意義や内容について説明するとともに、住民目線での感想や感覚を話し合ってもらった。

上がった意見を4つのステップとその前後に分けて、左写真のようにまとめた。



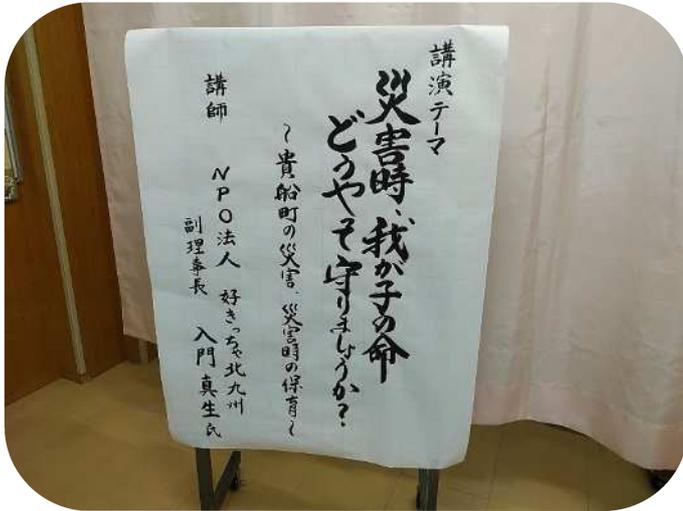
また、最後には地区Bousai会議を実施するとすればどのような課題があるか具体的に話し合った。ひとつのまちづくり協議会に2つの自治区会があるこのまちならではの課題や、地区社協での取組みとの並行や活用についての意見も出てきて、そのまちに合わせながらの実施も大切であると感じた。

住民主体の防災まちづくりを進めるにあたり、そのまちのカタチに合わせていくことは必須である。コーディネートをするにあたって、変幻自在に対応できることが大切であると感じた。

# 貴船保育園 家庭教育学級 『防災講座』 災害時、我が子の命、どうやって守りましょう？ ～貴船町の災害、災害時の保育～



- 1 日時 令和2年2月15日（土）9：05～10：20
- 2 場所 貴船保育園
- 3 参加者 貴船保育園保護者、職員 計72人



ほとんどの保護者が参加する年に2回の保育参観にて、防災をテーマとした講演を依頼された。保育園の課題として、大雨の際の避難情報が発令されたときにも、保育園を閉演することはできず、子どもを預からざるをえない。先生方の想いと各保護者の気持ちを揃えるために、それらを取り上げることにした。

まず、地名・地形についての解説。「貴船」は水の守り神であり、全国津々浦々に同地名が多く存在する。町内にも貴船神社があり、紫川のすぐ近くのこのまちは、水の流れと共存・共生してきたまちである。地形を見てみると、川の堤防よりも低い地形がずっと続き、洪水時の危険性はかなり高い。

シナリオにそって、保護者の感情と、子ども達や保育する先生方がどういう危険や不安を抱えていくのか、また、迎えに行く保護者がどんな危険と向き合わなければならないのか。順に解説していき、時折、隣同士で話し合う時間を設けて、主体的に感想を述べ合うように配慮した。

どの保護者たちも、自分自身よりも子どもの身の安全を願っている。自然災害とハッキリと向き合うことでまさかの事態でも、絶対に子どもの命を守るという想いが会場全体に広がっていたように感じた。

## 筒井校区 防災まちづくり 企画会議 コーディネート

- 1 日時 ①令和2年3月10日（火）10:00～12:00  
②令和2年3月18日（水）14:00～16:00
- 2 場所 筒井市民センター
- 3 参加者 筒井校区社会福祉協議会役員等 ①8人、②7人



昨年度、ボランティア養成講座にて、「自分のまちを見つめる防災まちづくり」を実施して御縁で、次年度の防災まちづくりについての企画会議ということで、コーディネートの依頼を受けた。

校区社会福祉協議会の主催にて、2回続けての開催である。

新型コロナウイルスの感染拡大を危惧し、スクール形式かつ参加者の距離を開けての会議となった。

第1回目では、地域特性の確認、防災まちづくりの要点、地域課題の洗い出しを行った。

第2回目では、具体的な取組みについて検討していき、まず方針としての参加メンバーの取組みへの合意を行った。次に、実施方針を確認し、内容の薄い「面的な広がり」ではなく、「点での広がり」を大きくしていくということに決定した。また、回数を重ねるごとに参加者が参加者を呼ぶような「楽しい」取組みとすることとする。次年度の後期頃に、複数回の連続講座を開催する予定であり、「地域を見つめる」方式と学童保育クラブの子どもを巻き込んだ「楽しい防災」の2点が中心テーマとなりそうである。

詳細は次年度になって調整をすることとし、子ども向けの防災については「あそぼうさい」でのコラボも検討していく。



2回にわたる「企画会議」であり、地域での中心メンバーに決定した内容で協力を仰ぐのではなく、ゼロからともに取組んでいくことを目指した、協働の地域づくりの好例であったと感じた。

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人

## 第1回 大蔵・河内地区Bousai会議



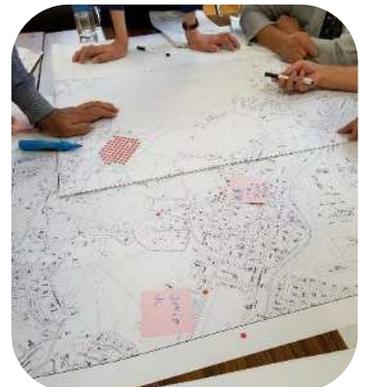
- 1 日時 令和元年9月21日（土）13:30~15:30
- 2 場所 大蔵市民センター
- 3 参加者 大蔵・河内地区の住民 58人



令和元年度の「みんなde Bousaiまちづくり推進事業」は、大蔵・河内地区を担当する。

「大きな谷」を意味するこのまちは、その名のとおり中央に大蔵川が流れる傾斜のあるまちであり、八幡の発展の礎となった河内貯水池は、池の底に沈んだまちの記憶がある。国境石や地形をヒントに、貯水池建設とともに、本来の川の流れが変化し、貯水量を越える雨が降った場合の水量の危険性を認識できた。

少なからず大雨災害への危機感があつたこのまち。Bousai会議をきっかけに、犠牲者ゼロ、命を守るまちづくりへの取組みが大きく進みだした実感となりました。



その土地の歴史や地形と向き合うことで、例えばハザードマップからは把握でない本質が見えてきました。このまちならではの取組みを進めていこうという意気込みが増してきたように感じました。

## 第2回 大蔵・河内地区Bousai会議



- 1 日時 令和元年10月19日(土) 13:30~15:30
- 2 場所 大蔵市民センター
- 3 参加者 大蔵・河内地区の住民 67人



第2回目の地区Bousai会議は、1回目に参加していなかったが評判などを聞いて参加いただいたという方が3分の1ほどおり、地域のなかでの声かけが広まっていたものと思われる。



第1回のふり返りで、講評であった地形等の話と、関東等を襲った台風第19号について解説した。犠牲となった事例や地域での取組みにより多くの命を救った事例を紹介し、一足飛びにはいれないが、こうした地域を目指し取り組んでいこうと再確認した。



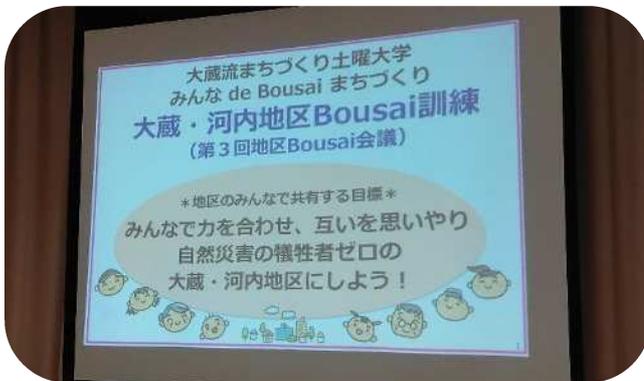
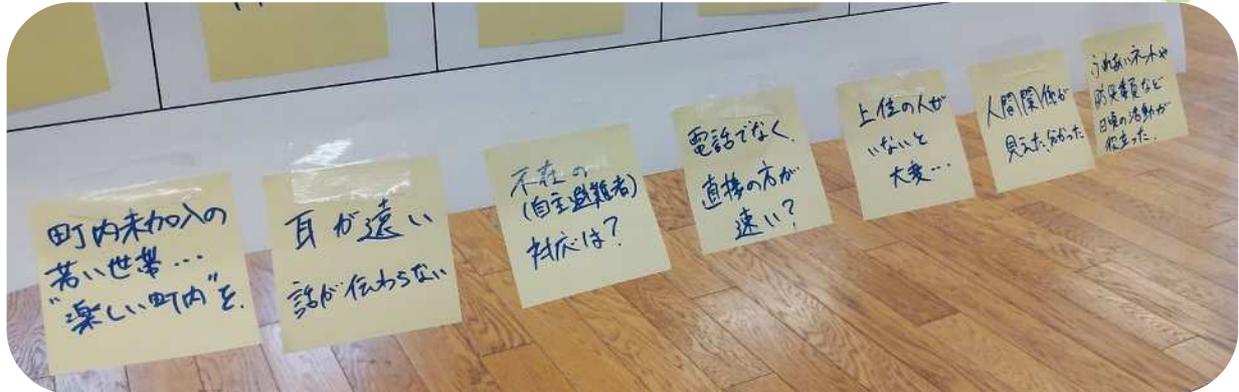
第1回は方向性や気持ちを揃える内容が主であったが、今回はより具体的な検討が進んだ。  
まず、声かけや行動の単位となる運命共同体の「防災隣組」の組織化について検討した。基盤の町会がしっかりしており、組をそのまま活用する町会や、それを細分化する町会、道路や立地の状況から既存の組ではない、防災用の組を再編成する町会もでてきた。次に、町会組織を活かした連絡網について検討した。町会長ひとりの負担にならないようにする分担制やメール等の活用の意見がでた。最後に、地域のなかで命を守ることができる緊急避難場所について確認した。

基盤となる町会を活かしながら、災害に備えた地域のカタチを見直すことが進んでいます。次回は実践訓練。情報を伝達し、防災隣組ごとに緊急避難場所へ避難します。命を守る実践的な取組みが進んでいます。

## 第3回 大蔵・河内地区Bousai会議【訓練】



- 1 日時 令和元年11月30日(土) 13:30~16:00
- 2 場所 大蔵市民センター(校区全域、各町会)
- 3 参加者 大蔵・河内地区の住民 約800世帯



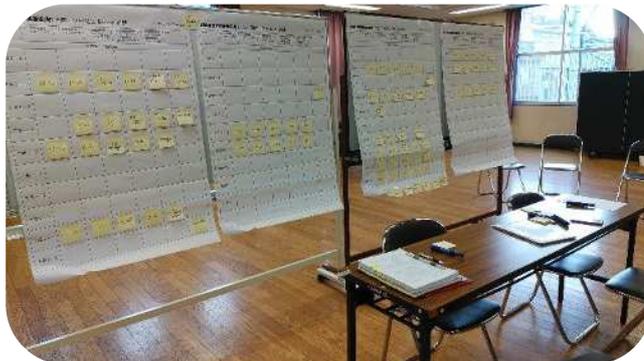
第3回となる今回のBousai会議は訓練！  
予定時間の無い訓練であり、いつ始まり、いつ終わるかは不明・・・『情報伝達』が主眼である。

各町会を基盤とした情報伝達を行うことがきまっております。自治区会長から町会長へ、町会長から各組や防災隣組へ情報が伝達された。



防災隣組ごとに「緊急避難場所」を決めていただいております。情報を受けた後、その場所へ避難訓練していただいた地域もあつた。

この訓練に向けて、各町会を基盤に準備が進められてきたとのこと。電話番号の確認、順番の修正、隣組の再編成など、実質的な連絡網の見直しや作成を進めていただき取り組むが故に様々な課題が浮かび上がってきた。



耳の遠い近隣者、町内会未加入世帯のこと、日頃からの人間関係や人付き合い・・・。日常に潜む課題がこの機会に把握できたことを「良かったこと」と実感いただいていることは大きな成果である。

共助の力で、自然災害から一人も犠牲者をださない！  
またひとつ、大きな一歩を踏んだように感じた。

実施する度に、参加者が増えている大蔵・河内地区。今回の訓練においても、相当な数の住民が参加しており、まだ全容は明らかになっていないほど。共通の地域課題に向け、真摯に、ひたむきに一歩ずつ進んでいる。

## 第4回 大蔵・河内地区Bousai会議



- 1 日時 令和2年1月18日（土）13:30~15:30
- 2 場所 大蔵市民センター
- 3 参加者 大蔵・河内地区の住民 54人



第3回目のBousai訓練では、743世帯もの住民が「情報伝達」に参加した。

町会毎にどれほどの参加者にするかを検討いただき、組長までであったり、全員であったりと、町会により異なったが、これほどの規模になるとは想定していなかった。

訓練を実施し、「やって良かった」との声を多く聞き、住民おしりの『日頃からのコミュニケーションがやっぱり重要』との感想を得た。

また、実際の災害は予定どおりにはいかず、今回の連絡を待つ時間さえ、そわそわしたとの感想をいただいた。



第4回会議では、訓練での感想や成果を共有した後、「避難判定ルール」を検討していくこととした。

町会を基盤に、どのような状況になったら、ご近所ネットワークの声かえをスタートするのか。災害が危惧される状況や、避難先の場所、また住民の移動スピードなど町会により状況が異なる。行政からの避難の情報や、気象の情報を活用し、『早めの避難』を考えつつも、住民でしか知りえない「地域の情報」については速やかに共有し合う体制を築いていくこととなった。



次回は地区防災計画をまとめる作業に入っていく。

情報伝達については、ある種の「組織論」である。今回踏み込んだ、地域の情報や不安の気持ちを共有するのは、「感情での共同体」になっていくものである。不安なことがあってもすぐに共有できる地域を目指したい。

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人

**到津まちづくり協議会  
からの大切なお知らせ**

## 大雨災害での犠牲者を<sup>ゼロ</sup>0に！ 到津校区 Bousai 会議が始まりました。



到津校区では今年度、大雨災害による犠牲者を出さないために、私たちの「地区防災計画」を作る全5回のBousai会議を実施します。

9月5日(木)の第1回会議では、想定される危険な状況や場所を皆さんで確認し、命を守る行動や避難場所について考えました。

どなたさまもお待ちしております！

第2回は10月3日(木)  
19時~21時@到津市民センター



### ◆ 会議に参加した皆さんの声 ◆

各地域から犠牲者を出さないことを考えて逃げるタイミングを早く伝える。

他人事ではなく、身近な問題として改めて危険箇所について考えることができました。

防災について地域の協力で準備していくようにする意識を高めました。

高齢者が多数なのでもしもの時を冷静に判断できるようにしたい。



今まであまり災害を経験していなかったのでかなり油断していました。明日から注意して見えます。

到津校区 Bousai 会議 サポーター(進行役)です。よろしくをお願いします！



北九州市立大学  
教員 村江史年



NPO 法人  
好きっちゃ北九州  
藤谷真利子

### Q. どうして大雨災害に備える必要があるの？

**A. 理由その1 荒ぶる気象状況 = 猛烈な大雨、大型台風などにより全国各地で水害・土砂災害が発生**

2017年九州北部豪雨 ▶



**理由その2 到津校区の地形 = 水の恵みと脅威が表裏一体のまち**

板櫃川の氾濫

斜面が崩れる

排水しきれず冠水・浸水



板櫃川 ▲

水害の場合は、災害が起こる前に危険に気づいて逃げるなどの命を守る行動ができます！  
地域で助け合う関係づくりが地震や火災にも役立ちます。



◀ マンホールから下水が溢れる被害

命を守るために…具体的にはどうすれば？ 続きは裏面に！

## Q. Bousai 会議では、具体的に何をするの？



### A. 命を守る「4つのステップ」を話し合っていて決めています！

到津校区 Bousai 会議では、大雨災害から命を守るために、課題を「4つのステップ」に分け、その内容について皆さんで話し合いながら、各ステップの中身を決めて、「**地区防災計画**」としてまとめます。



## Q. 4つのステップ…何から考えていくの？

### A. まずは、校区内の危険な場所と逃げられそうな場所を話し合いました！

住んでいる場所が近い人たち同士で班になって座り、地図を広げて【危険な場所】と【逃げられそうな場所】にシールを貼りながら考えました。



**危険な場所** 板櫃川の沿岸・水が特に溜まりやすい場所・過去に崩れた or 崩れそうな崖がある場所など

**逃げられそうな場所** 公共施設・学校・体育館・マンションの上階  
民間の施設・スペース・家族や知人の家など



※避難所指定されている場所に限らず、まずは「ここに逃げられるといいな」と思う場所を挙げました。

### ◆ 話し合いで出てきた気づきの声 ◆

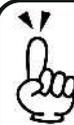
避難するときに板櫃川方面に向かうと危ないので清水小学校を目指そうと思う

マンションの上階なので家にいるのが安全

到津小学校を目指すとして坂の上だから大雨の中で登るのは大変そう

川沿いの市民センターに向かうのは危険だと思った

一時的に避難するなら〇〇マンションの2階に行けば助かる



避難＝指定の場所に行くことではなく、「命を守れる場所」に逃げることです。

**次回の Bousai 会議** 10月3日(木) 19時～21時 @ 到津市民センター  
 (テーマ) 「誰と避難するか」「どうやって避難することを伝えるか」

災害や避難のこと  
 気になる方は  
 ぜひお越しください！

# 防災 到津校区 Bousai 通信

第2号

令和元年 11月1日発行

到津校区まちづくり協議会からのお知らせ

第2回 到津校区 Bousai 会議

【テーマ】誰とどこに避難するか、情報をどう伝達するか。



到津校区では、大雨災害による犠牲者を出さないために、私たちの「地区防災計画」を作る全5回のBousai 会議を実施しています。

10月3日(木)は第2回会議を開きました。

次回は Bousai 訓練！ 11月30日(土) ●時～

訓練その1 情報伝達と避難の訓練

訓練その2 ふりかえり&炊き出し昼食

Q. ご近所の誰と声をかけ合い、避難しますか？



A. 声をかけ合い、一緒に避難するご近所の「範囲」を話し合いました。

◆ 会議に参加した皆さんの声 ◆

町内の組ごとのほうがグループを作りやすいので、もっと横のつながりを密にする必要性を感じました

町内会でよく話し合わないといけないと思った

各階ごとに組織している組長単位にしたい(マンションの事例)

なぜ「みんなで」なの？それは、一人では避難の決断が難しいからです。



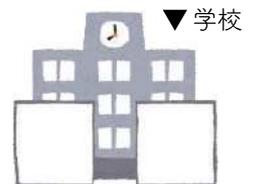
緊急避難場所として挙がった場所

Q. 早めに避難できなかった場合、どこに避難しますか？

A. 近くの避難できそうな場所について考えました。

避難したい場所に依頼しておくのが大事

私はマンションに住んでいるのでここに避難して来れるように管理組合で話し合いたい



マンションの上階

企業の建物



体育館

Q. どうやって「避難すること」を伝えますか？

A. 連絡の流れ(連絡網)と手段について話し合いました。



連絡は一人に負担をかけず、手分けして伝えましょう。連絡をして不在だった場合、どうするのかも考えておきましょう。

連絡先を入手して連絡網をまとめたい

連絡網は一直線ではなく円状に連絡できるようにする

防 災

# 到津校区 Bousai 訓練

## 11月30日(土) 9:00~12:30



今年度、到津校区では、風水害から“命を守れる”ように「到津校区 Bousai (防災) 会議」を開いています。訓練では、みんなで声をかけ合う情報伝達を体験します。



### 訓練その1 9:00~11:00

<ステップ3>  
みんなに  
情報を  
伝える

<ステップ4>  
みんなで  
行動する  
避難する

#### ① 情報伝達スタート

●時、まちづくり協議会から町内会長等に連絡

#### ② みんなで情報を伝達する

各町内、組内の連絡網などで情報を伝え合う

#### ③ 緊急避難場所にみんなで移動

### 訓練その2 11:00~12:30【会場】小倉北特別支援学校

## ふりかえり & 非常食のお昼ごはん (カレーライス ・無料)

### — 情報伝達訓練の事前メモ —

連絡をくれる 相手のお名前・連絡先	
あなたが情報を伝える 相手のお名前・連絡先	
緊急避難場所 (命からがら逃げる場所)	

主催：到津校区まちづくり協議会 お問合せ：到津市民センター ☎583-8866 ★参加申し込み不要

到津校区まちづくり協議会  
からの 大切なお知らせ

## ゼロ 大雨災害での犠牲者を0に！ 到津校区 Bousai 訓練を実施しました。



到津校区では9月から、大雨災害で犠牲者を出さないために、私たちの「地区防災計画」を作る、全5回の Bousai 会議を開いています。

11月30日(土)は、会議で話し合ってきた校区内での情報伝達を実践してみる「訓練」を行い、約600世帯の皆さんが参加しました。

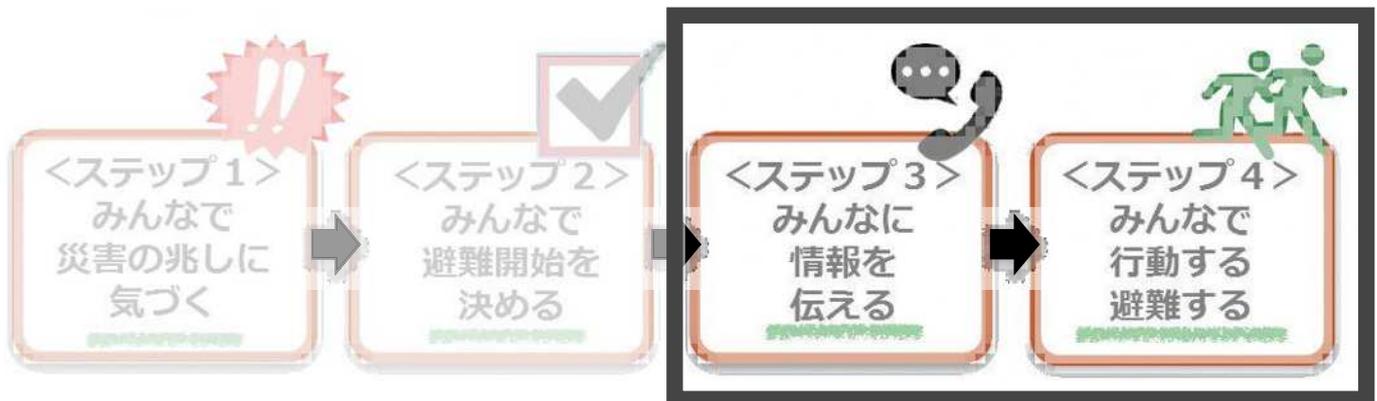
次回の Bousai 会議 **1月9日(木)**  
**19時~21時 @到津市民センター**

### Q. どんな訓練をしたの？

A. ① 避難の連絡をまわす「情報伝達訓練」をしました。



訓練の想定は、午前9時、到津校区に「避難指示」が発令されたというもの。まちづくり協議会の役員から始まり、町内会長、組長、住民へと「避難」を伝える連絡をまわしました。電話や各戸訪問で、約600世帯の皆さんが連絡し合いました。



② 家の近くの「緊急避難場所」に移動しました。

訓練では、命を守るための<4つのステップ>でいうと、「3. みんなに情報を伝える」と「4. みんなで行動する・避難する」を实践。



情報伝達訓練のあとは、各町内や組で決めた、大雨災害時の「緊急避難場所」やその候補地に移動しました。(今回は公会堂や集会所などに集合)



▲ 情報伝達にかかった時間や参加世帯数を集計表に記入した



避難とは、より安全な場所にいること。移動できるうちに「早めに避難」するのが原則ですが、自宅近くで安全を確保できる「緊急避難場所」を、地域住民が中心となって、あらかじめ決めておくことが大切です。



## サブ訓練：特別支援学校の体育館で“防災体験”

「緊急避難場所」に集まったあとは、小倉北特別支援学校の体育館に移動。ダンボールベッドの体験や、救命法、非常食の作り方などを学び、昼食には実際に、白ご飯とけんちん汁を食べました。



### ◆ 訓練に参加した皆さんの声や取り組み ◆

情報伝達訓練の結果、町内会長から組長にまで連絡がつながり、組長さんが各戸をまわってくれた。日頃の集まりには参加しない人も来てくれたのが良かった。

緊急避難場所までの道中も、声をかけて誘って行った。緊急避難場所として高台に住む方に家を開放してもらい、みんなでコーヒーを飲んだ。初めてのことだったが、ご近所でのこんな交流が大事だと思った。

各戸を訪ねてまわり、連絡網を作った。連絡網と一緒に平屋、2階建てなどの情報も記載した。

12人が緊急避難場所に集まった。集まったのは、日頃からサロンに参加している人たち。日頃のつながりが、避難にもつながりそう。

訓練の10日前に組長全員に集まってもらった。そこで訓練内容について周知したうえで、「情報伝達訓練」に臨めた。

### ◆ 今後に向けて 皆さんから挙がった声や課題 ◆

緊急避難場所について。いま、緊急避難場所としている所にはトイレが一つしかないのが課題。

親に避難を説得するのが大変そう。いつ、どこに避難するか事前に話し合ったり、決めたりしないと。

今回の訓練をきっかけに、「緊急時、近くの人たちがうちのマンションに逃げて来られるようにしたい」という意見が出ていた。

災害がどこでも起きている。「うちは大丈夫」はない。災害への意識を高めるにはどうしたらいいか？

次回はもっと連絡がつながるようにしたい。



次回の Bousai 会議 1月9日(木) 19時~21時 @ 到津市民センター  
〔第4回のテーマ〕「逃げるタイミングを判断できる私たちになろう」



大雨災害は、天気予報や避難情報、周囲の環境変化から「災害の兆し」に気づくことができます。次回の会議では、避難をいつ、どうやって決めるのか話し合います。



到津校区まちづくり協議会  
からの大切なお知らせ

## ゼロ 大雨災害での犠牲者を0に！ 逃げる時を判断できる私たちになろう。



到津校区では昨年から、大雨災害で犠牲者を出さないために、私たちの「地区防災計画」を作る、全5回のBousai会議を開いています。

1月9日(木)は、避難を決定するまでのステップについて話し合いました。

次回のBousai会議 2月27日(木)  
19時~21時 @到津市民センター

## Q. 大雨のとき、いつ、どうやって逃げる判断をしましょうか？

### A. 避難をみんなで判断するための「ルール」を作りましょう。

災害から命を守るためには、災害が起きる前に「普段とは違う何か」=「兆し」に気づいて逃げるのが重要です。

災害の「兆し」とは…

#### 👁️ 目に見える事象・感覚 ♡

「雨が降り続いていて、一人で家にいるのは不安」  
「川の水かさが増えている」  
「がけから水が出ている・小石が落ちてくる」など

#### 📢 気象・防災情報 📢

避難準備・高齢者等避難開始/避難勧告  
大雨注意報・大雨警報・大雨特別警報  
土砂災害警戒情報・記録的短時間大雨情報 など

#### 🚨 他所の動き 🗣️

近くの町内会が避難し始めたなど



「兆し」をもとに、兆しがいくつ発生したらなど、あらかじめみんなで条件を決めておくのが「避難のルール」。

#### 《ダメな避難ルール×》

個人や一部の人たちに逃げることを決めさせては絶対にしてはいけません!!

※ダメな例…

「町内会長、組長に避難を決めてもらう」

## ◆ 会議に参加した皆さんがあげた「兆し」事例 ◆

- ・気象庁が出す警戒レベル3
- ・上層階から板櫃川の水位を目視
- ・側溝の穴から水が吹き出す
- ・板櫃川が危険水位
- ・エントランスの浸水
- ・1時間で100mmの降水量



# Q. 「兆し」をみんなでどうやって集めますか？

A. 「兆し」をどこに連絡し共有するのか、決めておきましょう。



「兆し」を発見したら、報告して共有します。「避難のルール」適用条件に達したら、「避難開始」を機械的に判断しましょう！

## ◆ 会議に参加した皆さんが考えた「兆し」共有の流れ案 ◆

- 町内会長・組長・福祉協力委員(10名)で兆しを共有して、情報を流す。
- 校区の役員のところへ情報を集める。
- 板櫃川に近い方が避難の必要を感じたら校区役員に連絡する。



## ◆ 会議に参加した皆さんの声 ◆

- 隣組との連絡が取れる関係づくりが大切だと感じた。
- マンション管理組合と町内会との連携が重要だと感じた。
- 連絡の方法について会議をきっかけに少し前進できた。
- 地区防災計画を広げていくために町内の垣根をこえた合同説明会を実施したい。

**第5回 Bousai 会議** 2月27日(木)19時~21時 @ 到津市民センター  
 [第5回のテーマ] 「地区防災計画の内容を確認しましょう」

災害や避難のこと気になる方はぜひお越しください!

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人

## 中島校区Bousai会議 フォローアップ



- 1 日時 令和元年5月22日（水）19：00～20：30
- 2 場所 中島市民センター
- 3 参加者 中島校区住人（町内会長・組長） 80人



### 『中島校区防災計画』



平成29年度に実施したBousai会議。そのときに作成して「中島校区防災計画」をあらためて確認。概要版を配布するとともに、新想定ハザードマップを見て、この計画の実効性を高めていくことを確認。毎年の訓練や、連絡網の確認などを行う。また、避難場所としてのマンション3階の集会室を提供する話や、近隣施設との連携について意見が挙がった。

### 中島校区：命を守る「4つのステップ」



命を守る「4つのステップ」について、あらためて確認。2階以上へ避難の徹底と、ご近所での対象者の把握を行っていく。避難判断となる水位計を、Bousai訓練ではイベント要素を盛り込みつつ、確認しに行く。

春には桜がキレイな紫川のある中島校区。春の訪れを楽しむことと同じく、大雨時には適切に避難する。恐れるのみならず、地域愛のもと、自然との共生を目指していきたい。

## 中島校区Bousaiウォーキング（訓練）フォローアップ



- 1 日時 令和元年6月9日（日）11：00～13：00
- 2 場所 紫川流域（徳力嵐山口～中島校区）
- 3 参加者 中島校区住人 30人



「中島校区防災計画」にて、

- 毎年6月上旬に訓練を実施する。
- 桜橋の水位計で「避難判断水位」に達すると中島校区住民独自で避難開始を始める。ことと定めている。

昨年度と同様に、初夏のウォーキングイベントを企画し、健脚の住民が自分のまちを目指し歩いた。

11：00 徳力嵐山口駅集合

12：00頃 紫川河畔公園で昼食



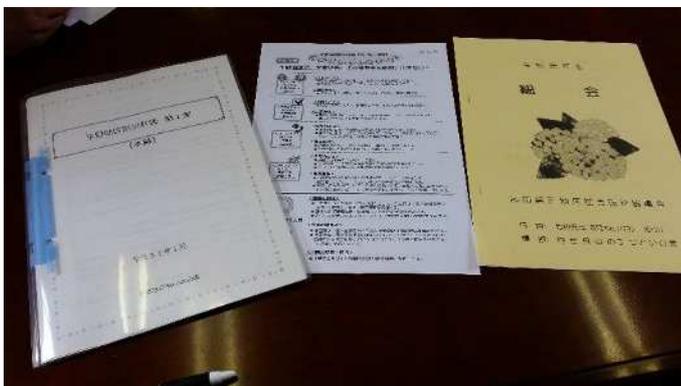
避難判定の基準となる水位計を実際に確認して川の構造や、水位の上がりやすさを実感した。また、カメラの位置や、インターネットで見られる映像も合わせて確認した。

こうした啓発活動は、楽しく継続できる仕組みづくりが重要である。地域特性から、川に沿ってウォーキングを楽しみながら、川と向き合う機会を作っているこの取組みはとても素晴らしいと感じる。

## 平野地区Bousai会議 フォローアップ



- 1 日時 令和元年5月19日（日）10:30~12:00
- 2 場所 西台良つどいの家
- 3 参加者 前田第3地区社協役員 40人



平成30年度に実施したBousai会議。  
そのときに作成した「平野地区防災計画」を  
あらためて確認。  
概要版をもとに、4つのステップをはじめとした  
計画の内容を確認した。  
参加住民とともに、このまちの地形を考えて  
水の流れや避難の方向性について話し合った。



行動のきっかけは、ご近所での声掛けが有用で  
あることを改めて認識し、あいさつをはじめと  
した日頃からのコミュニケーションを重要視して  
いこうという意見がでた。

会長をはじめとした地域住民により、協定を結んだ  
堅牢な建物への避難についても確認した。

次回は、市民センターでのBousai訓練！

山とともに生きるこのまちで、山を見上げると、峰や谷の地形がうかがえる。そこに川があり水の流れるを感じる。このまちならではの、地形を見つめた対策を進めていきたい。

## 平野地区Bousai訓練 フォローアップ



- 1 日時 令和元年6月6日（木）10：00～12：00
- 2 場所 平野市民センター
- 3 参加者 平野地区の住民・市民センター職員 60人



平成30年度に作成した「平野地区防災計画」に基づき、毎年6月上旬頃に防災訓練を実施することとされており、市民センターでの定例の火災避難訓練と合わせて、多くの住民が参加し、イベント型の防災訓練を実施した。  
前半30分：火災避難訓練  
中盤60分：好きっちゃコーディネート  
後半60分：非常食カレーを食べる！



地区防災計画のふり返しには、①気象の状況、②このまちの特性に着目し、備えるべき理由から確認をはじめ、「今年も8割がた大丈夫だろう」と「山の形ボール投げ」ゲームにより、楽しく実感した。  
住民が出演し作成したオリジナルムービーをもとに、『命を守る4つのステップ』を確認し、それぞれの項目で内容を確認した。



最後に、行動のきっかけは住民の声かけであることを前提とし、情報伝達のデモンストレーションを行った。情報を受けた人は起立し、他の参加者へ伝達を行う。情報を受けた人が多くなる後半は一気に情報が伝わっていくことを実感した。

このまちの特徴に合わせた、イベント型の防災訓練となった。難しいテーマではあるが、楽しく、多くの方で継続して実施する事が重要である。地域主体の良いイベントとなった。来年度にも期待☆

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人

## 足原市民センター生き生き子ども講座



「NPO法人好きっちゃ北九州」により  
防災を楽しく学ぶ！「あそぼうさい」を実施しました！



**山の形ボール投げ**  
なんで真ん中に集まるのー！？  
雨の水が集まる山の形と同じ！



**トランシーバーで助けを呼ぼう！**  
トランシーバーは初めて使ったかな？  
災害時には、一人一人助け合おうね！



**災害ぶたのしっぽ**  
何気ない日常のなか、突然の災害・・・  
地震のときは素早く逃げた人が勝ち！



**〇×クイズ**  
えー！？それが正解なの！？  
家でも話し合ってみましょう！



このまちをもっと好きになって、このまちで安心して暮らしていくために大切な防災を学びました。  
今日の話をお子様と保護者さまとで、ご家庭のなかで話し合ってみてください！  
みんなの元気をもらい、楽しく遊べました！ありがとうございました！ 【NPO法人好きっちゃ北九州】

## 明治学園高等学部 あそぼうさい指導



- 1 日時 令和元年6月11日（火）15:30~17:00
- 2 場所 明治学園高等学部
- 3 参加者 プロジェクトメンバー6人



### 【下写真：H31.3.11.@井堀小学校での指導】



昨年度イオンモール八幡東でコラボした明治学園高等学部の生徒が、防災・減災をテーマに研究・実践しており、あそぼうさい活動での指導を行った。

彼女らは、市教育委員会と掛け合い、小学校での任意の取組みにて、あそぼうさい授業を実施している。

昨年度、3月11日に実施した様子【左写真】



今年度も同様に実施する予定であり、新たな独自のあそぼうさいゲームを考案しており、それらの留意点について指導を行った。

また、楽しく実施することや、直後のみならず長い記憶の定着に繋がるような取組みが重要であると話し合った。

若いエネルギー溢れる力が、次世代の防災教育の育成に力を注いでおり、とても頼もしい。彼女らは、指導した小学校上級生が下級生に伝えられるよう工夫したいと意気込んでおり、「伝えていく」ということがとても魅力的だと改めて感じた。

## 北九州市立大学防犯・防災プロジェクトMATE'sコラボ事業 『萩っ子きらきら隊』～あそぼうさい～

- 1 日時 令和元年7月6日（土）9：00～13：00
- 2 場所 萩ヶ丘小学校
- 3 参加者 萩ヶ丘校区（子ども42人・地域27人）学生16人



小学生たちが夏を感じるこのイベントに、楽しく防災を学ぶ「あそぼうさい」を取り入れてほしいとの依頼。北九大MATE'sの皆さんに協力いただき、実施した。

七夕飾り・絵本読み聞かせ・流しそうめん・スイカ割りなどのお楽しみと、防災〇×クイズ、身近にある物でのグッズ作りを行った。

懐中電灯とペットボトルを用いたランタン作りでは、体育館を真っ暗にして灯す明かりが子ども達の記憶にも残ってくれることと感じた。

大学生が地域に入って、協働・支援のカタチをつくるにおいて、そのバランス感覚が重要であり、「やりすぎない」「お客さんにならない」立ち位置を学んだように感じる。また、地域側においても、これらのサポートが+@としての機能であり、あくまで主体は地域であることを認識できたと感じる。

アンケートからも子ども達の地域住民への感謝も読み取ることができた。

防災や安全・安心において、地域コミュニティは最も重要なテーマであり、この創造においては、こうしたイベントを通じることが有用であると感じた。

# 大里南市民センター講座 あそぼうさい～ゲームで防災体験～



「NPO法人好きっちゃ北九州」により  
防災を楽しく学ぶ！「あそぼうさい」を実施しました！



### 台風ポーリング

台風の進路のメカニズムを実感！  
巨大化するほど直撃しやすい・・・



### 災害ぶたのしっぽ

何気ない日常のなか、突然の災害・・・  
地震のときは素早く逃げた人が勝ち！



### 非常食の試食

いざという時のために  
日頃からの備蓄が大切！



### どこに命中！？災害ボール投げ

狙ってもなかなか当たりません・・・  
でも災害はどこかに必ず起きます



### 災害伝言ダイヤル171

「大丈夫だよ」を伝えることが  
一番大切！安心を作るメッセージ！



### 防災グッズ暗記ゲーム

10個全部、覚えました！！  
ご家庭でも復習してみましょう！

このまちで安心して暮らしていくために大切な防災を、体験しながら学びました。  
この講座でのことをご家庭のなかで話し合ってみてください！  
皆さんの元気をもらい、楽しく遊べました！ありがとうございました！

【NPO法人好きっちゃ北九州】

# 令和元年度 10月5日 あそぼうさい@花房小学校 活動報告

“あそぼうさい”とは防災の「難しい」「怖い」「自分事ではない」といったイメージを打破し、楽しく、あそびながら体験を通してまなびを感じるプログラム。

## 1. わらしべ長者ゲーム

じゃんけん列車の要領で自分のチームに伝えられた災害に必要なカードを集めていきました！



## 2. 防災O×クイズ

チームで話し合って正解だと思う方に動いたよ。防災についてみんなと一緒に学びました！



## 3. キャタピラリレー

ダンボールで作ったキャタピラの中に入れてチーム対抗で競い合いました！



最後はみんなで振り返りをしました。



「防犯・防災プロジェクト MATE's」により、あそびを通して防災について学ぶ「あそぼうさい」を花房小学校の全校児童を対象に実施しました！！

【児童：179人、教職員30人、地域住民55人、学生18人が参加】



# 令和元年度 10月5日 あそぼうさい@花房小学校宍屋分校 活動報告

“あそぼうさい”とは防災の「難しい」「怖い」「自分事ではない」といったイメージを打破し、楽しく、あそびながら体験を通してまなびを感じるプログラム。

## 1、防災カードゲーム「ぶたのしっぽ!？」

晴れの日、雨の日、曇りの日…いつもの日常に、突然やってくる地震!! 安全な場所へ、いちもくさんに逃げた方が勝ち!



## 2、「北九州は安全…?」キミが大きな台風になってみよう。

なんで北九州は災害が少ないの? でも、もし、こんな大きな台風が来たら…どうでしょう?



## 3、防災無線体験! 勇気を出して、「たすけてください!」

電気も電波もつながらない…そんな時に、意外な通信手段がある! 過去の実例から、無線による救助を体験! まちを救うのはキミの勇気だ!



こどもだけでなく、地域の大人の皆さま、消防署員の皆さままで、たくさんの方に来場してもらいました! 楽しそうで何よりでした、と喜んでもらえました!

# どうして大雨になるの？

## × 地球温暖化

令和元年10月6日(日)

時間 13:30~14:40

場所 北九州市立水環境館



COOL CHOICE



地球温暖化により増える豪雨災害。台風のメカニズムを学びながらボーリングで体験しました。小さな台風から大きな台風をボールに見立てて九州山脈を越えて北九州に上陸、ピンをめがけます！！

「災害はいつどこで起こるかわからない」旅行中に大雨被害に遭った山口さんが体験を話してくれて、子どもたちも真剣に聞いていました。



そして地球の未来のために今できることCOOL CHOICE (賢い選択)を地球くんが教えてくれました。子どもたちは保護者の方たちと相談しながら地球くんのいるプールへボールを投げました。地球くんが「ん～熱いな～」と、

ならないようにみんなで考えて子どもたちが地球くんの反応をみながら、地球温暖化を身近に感じれるゲームです。豪雨災害の軽減を目指し、あそぼうさいとCOOL CHOICEがコラボしました！

参加者 幼児14人 低学年1人 高学年2人

### 水環境から学ぼう! 地球温暖化ってなーに?

このまま地球が温暖化していくと、私たちにどんな未来が待っているんだろう?? 温暖化と私たちの暮らしや身近な生き物の関係や、温暖化防止のための取り組み(COOL CHOICE)について、このイベントで楽しく学ぼう! 今回は、緑の生き物(昆虫)も登場するよ! みんな水環境館に集まれ~!

2019.10.6(日)

10:00~15:00

水環境館 (瀬江3地下1階)

小倉北区船場町1-2

主催:北九州市立水環境館  
協力:水環境館

#### 講演 スケジュール

11:00~11:30

私たちの身近にいる「昆虫」

×  
地球温暖化

講師: 九州大学環境プロジェクト 西野 賢吾 さん  
私たちが生活する中で大切にしている昆虫の役割や、昆虫の生態について詳しくお話します。昆虫の生態や、昆虫の役割について詳しくお話します。

13:30~14:40

どうして大雨になるの?

×  
地球温暖化

講師: 福岡県環境部(北九州環境水産局長) 山口 康人 さん  
福岡: あまほらひらひら  
×  
温暖化防止の取り組み(COOL CHOICE)について詳しくお話します。温暖化防止の取り組み(COOL CHOICE)について詳しくお話します。



#### 同時開催!

カヌー体験

川

時間: 10:00~13:00

料金: 高校生以上 500円  
小学生以下 300円  
小学生以下 300円  
※当日現金決済です。

※当日現金決済です。

お問い合わせ 電話 093-582-2784 (北九州市立水環境館)

水環境館

水環境館

水環境館

水環境館

水環境館

地球温暖化がどういうものなのかが小さい子どもたちに伝えることが少し難しかったけど、自分だったらこれなら出来る、出来ることを続けて未来のために今できることをCOOL CHOICEを通して伝えていきたい。

## 天籟寺市民センターいきいき子ども講座 あそぼうさい

- 1 日時 令和2年2月1日（土） 10:00~12:00
- 2 場所 天籟寺市民センター 3 参加者 19人



新規のネタを多く実施したあそぼうさい講座！おなじみの、災害ぶたのしっぽ、台風ボーリングはグループに分かれて実施、盛り上がりました！後半に、台風の風をイメージして、家の中を避難する！？台風の位置によって、危険な窓が変わることもよく分かりました！節分にちなんで鬼も登場！（笑）また、天籟寺の地名とも関連している風の集まり方も肌で感じました。最後に、防災ビンゴ！今日のまとめと合わせて、ふり返りながら、プレゼントをもらいました！

市民センターの子ども講座を、あそぼうさいで盛り上げたい！との思いから始まったこの講座。想定より多くの子ども達が来てくれ、楽しみながら、肌で感じながら防災を体感しました！

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人

## あそぼうさい@イオンモール八幡東 キックオフ会

- 1 日時 令和元年10月23日（水）18:30～20:30
- 2 場所 サイゼリア 小倉駅前1' m店



### 【参加団体】

- NPO法人好きっちゃ北九州
  - NPO法人里山を考える会
  - Say! 輪
  - 北九州市立大学Mate's
  - 九州共立大学子育て支援班
  - 明治学園防災・減災PJ
  - NPO法人わくわーく
  - 生き方のデザイン研究所
  - 八幡駅前開発前田謙さん
  - ESD原賀いずみ先生
  - OKJエアロビ高戸里美先生
  - 北九大勅使河原航先生
  - キッズワーク大久保大助先生
- 1.3団体、2.4名



昨年度、イオンモール八幡東で初開催した『あそぼうさい in 北九州』 好評につき今年度も開催すべく関係する団体・個人の皆さまが集い、キックオフ会を食事を交えて行った。

イオンモール八幡東には懇意にいただき、令和2年2月22日（土）の開催を予定しており、さらに北九州活性化協議会（KPEC）の行う『1000人の夢寄金』から40万円の助成をいただくこととなった。企画の内容のみならず、こうして多岐に及ぶ人財のネットワーク化、ノウハウの集約が評価されている。

助成金は、今年度のあそぼうさいの共通項目の必要経費（チラシの作成や会場説明など）に充てるとともに来年度以降のこうしたランニングコストを生み出す仕組みづくり（ノウハウのパッケージ化、アウトプット、HPの立ち上げと発信、応援者・協力者の獲得）を目指す。

多彩な人材が作りだす『あそぼうさい』生活や災害のカタチは様々であり、多くの方が関わっていただけることによって広く深くなっていくものと感じている。今年もとっても楽しみ！！

## あそぼうさい@イオンモール八幡東 事前交流会

- 1 日時 令和2年1月18日（土）18:00~19:30
- 2 場所 環境ミュージアム
- 3 参加者 あそぼうさい協働者23人



2/22に開催する第2回あそぼうさい@イオンの『事前交流会』を開催した。

当NPO法人含む5団体が実行委員会という位置付けて全体として並列の共同体であるが、幹事的な役割を果たす。

昨年度始めたこの取組みであるが、「人材ネットワークの構築」も狙いとしてあり、「もっと交流したかった」という意見があり、今回の交流会を企画した。



趣旨説明や企画・準備の留意点を説明しつつ、主となる点は交流の注力した。

話しやすいようにグループごとに活動内容の紹介などをしていただき、全体で「他己紹介」にてシェアした。それぞれの活動はとても興味深く、きっと多彩な面白いイベントになることと思う。



終了後には、イオンの会場確認を行い、第1回目からの参加者も多く、イベント当日に円滑にを実施できるように準備をすすめたい。

あそぼうさいについては、「子ども×防災」を真ん中に置き、多彩なジャンルの人達が集い創り上げるとても素敵なイベントであることを改めて実感できた。

# あそぼうさい@イオンモール八幡東【中止⇒ムービーコンテンツ作成】

- 1 日時 令和2年2月22日（土）10:00～16:30
- 2 場所 イオンモール八幡東
- 3 参加者 親子連れ 900人



**みんなでおどろう！ ぼうさいダンス しんぱいしょう 『心配性ヒーロー』**

あめだーあめだーあめだー 大雨だー台風だー土砂降りー びさあびさあびさあびさー

《セリフ》大丈夫大丈夫、 逃げるのカッコ悪いよ～ でたな！大丈夫量人！ 忘れろな！恐れる心！

まさかそんなもなしからー！ 避難の場所決めておこう みんなに声かけ逃げよう

こわがるヒーロー 『心配性ヒーロー』

①地震 しんぱいしんぱいしんぱいー しんぱいしんぱいしんぱいー ぐらくぐらくぐらくぐらくー

《セリフ》避難！安全スペースダッシュ！

しゅびしゅびしゅびしゅびーん 地震は突然やってくる たおれるものをチェックチェックチェック チェッカー

こわがるヒーロー 『心配性ヒーロー』

②水害 あめだーあめだーあめだー 大雨だー台風だー土砂降りー びさあびさあびさあびさー

《セリフ》大丈夫大丈夫、 逃げるのカッコ悪いよ～ でたな！大丈夫量人！ 忘れろな！恐れる心！

まさかそんなもなしからー！ 避難の場所決めておこう みんなに声かけ逃げよう

こわがるヒーロー 『心配性ヒーロー』

③家庭での備え 準備だー準備だー準備だー いざという時の準備だー じつこつこつこつ準備だー

《セリフ》避難！食べたら買おう ローリングストック！

チャリバクチャリバクチャリーン

水と食料3日分 お家でもしを揃えよう

こわがるヒーロー 『心配性ヒーロー』

おそれる心が 命をまもる！

こわがるヒーロー 『心配性ヒーロー』 みんな一緒に『心配性ヒーロー』

ウイルスに負けず！ダンス動画を配信中！！

YouTubeチャンネル Facebookページ

④水害

⑤地震

⑥水害

⑦地震

⑧水害

⑨地震

⑩水害

⑪地震

⑫水害

⑬地震

⑭水害

⑮地震

⑯水害

⑰地震

⑱水害

⑲地震

⑳水害

㉑地震

㉒水害

㉓地震

㉔水害

㉕地震

㉖水害

㉗地震

㉘水害

㉙地震

㉚水害

㉛地震

㉜水害

㉝地震

㉞水害

㉟地震

㊱水害

㊲地震

㊳水害

㊴地震

㊵水害

㊶地震

㊷水害

㊸地震

㊹水害

㊺地震

㊻水害

㊼地震

㊽水害

㊾地震

㊿水害

1000人の奇金

見えない敵「新型コロナウイルス」の感染拡大を危惧し、好きっちゃんも参画するあそぼうさい実行委員にて『イベント中止』を決定した。

この「あそぼうさい」プログラムが人と触れ合いながら遊ぶことやスタンプラリーで回遊することなどその特性上、感染対策が難しいことが中止決定の大きな要因となった。

主にチラシでの宣伝であったため即時性のある広報発信ができず、900人の親子連れが来場いただいた。申し訳ない気持ちで少しのプレゼントを渡すのみとなった。

そんななか、YouTubeにて配信する『ムービーコンテンツ』を撮影した。太めパフォーマンス、九州共立大、北九大MATEs、生き方のデザイン研究所の皆さんでの協働作品となった。

**あそぼうさい in 北九州**

チャンネル登録者数 14人

チャンネル登録

ホーム 動画 再生リスト チャンネル フリートーク 概要

アップロード動画 ▶ すべて再生

防災ダンス「心配性ヒーロー」振付レクチャー動画 9:00

防災ダンス「心配性ヒーロー」(歌詞つき) 3:46

防災ダンス「心配性ヒーロー」手話バージョン 3:49

防災ダンス「心配性ヒーロー」みんなでおどろうバージョン 3:46

見えない敵に対し、心配性ヒーローの理念のもと、こわがって中止を判断した。防災や身を守る根本について改めて考える機会となった。この中止の逆境のなか、子ども達へのメッセージとしてムービーでの表現を作ることができた。手話バージョンや振付の解説付きなど、多くの方々に広まってほしい。

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人

## あやめが丘小学校 防災教育モデル授業



- 1 日時 令和元年10月2日（水）9:45～11:35（45分×2コマ+20分休み）
- 2 場所 あやめが丘小学校
- 3 参加者 小学4年生2クラス 67人



令和2年度からの小学校学習指導要領の改訂では小学校4年生以上で防災教育カリキュラムが充実される。その土地に合わせた内容を実施すべきで、北九州市も教育委員会をはじめ実施内容を検討している段階である。

社会科の研究モデル校でもあるあやめが丘小学校にて「市民活動における防災」というテーマで2コマ実施。



前半は防災啓発の紹介として『あそぼうさい』を体験。  
①チームで〇×クイズ、②防災グッズ暗記ゲーム、  
③災害伝言ダイヤル171、④伝言ゲーム、  
⑤バケツリレー、知識ではなく姿勢による防災が大切であり、助け合いが根幹であることを体感した。

後半は地域住民による防災対策を体感すべく

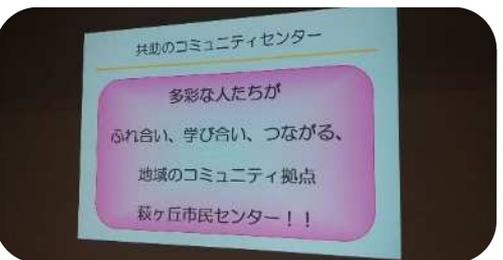
「地区防災計画体験ロールプレイゲーム」を実施した。校区内の住居配置に合わせご近所さんチームを作り、仮想の地区防災計画を配布し、カードにて事象や状況が順次示され、災害の兆しの緊急性の度合いに応じて避難ルールに達するかをチェックする。教室の前と後ろに避難先が分かれており、チームごとに一緒に避難行動を体感した。

日常生活に突如起こる災害。怖い、自分事ではないと思ってしまうがちだが、子ども達もしっかりと向き合っていてほしい。この授業では楽しさを織り交ぜながら体験し、地域住民や市民活動での防災を実感できたと思う。

# 共助のコミュニティセンター ロールプレイゲーム『はぎがおカード』



- 1 日時 令和元年11月13日(水) 14:00~14:40
- 2 場所 萩ヶ丘市民センター
- 3 参加者 萩ヶ丘校区のクラブ関係者等 31人



文化祭のふり返り会の多彩な人材が集まる場を活用して、市民センター利用者の助け合いや繋がりづくりを目的とした。

ともに取り組むためには「共感」が必要であり、突然の地震発生をテーマに助け合いながら屋外へ避難する企画。当初の居場所と実施内容が書かれた「はぎがおカード」を1枚ずつ配布し、自由に楽しんで活動していただくものである。

「助けてください」を堂々と、遠慮せず、笑顔で言うことを遊び方のルールとし、参加者どうして楽しく取組んだ。

負傷者を助けるのに人を集めたり、様々なアクシデントを攻略していった。安否確認の点呼の場面ではリーダーが現れたり、気配り・目配りされる方など、様々なドラマが多く生まれた。

ゲームをツールとして、参加者どうしが触れ合う仕組みづくりは有用であると改めて実感した。それぞれ思いやり、助け合える地域づくりが一層深まるプログラムを開発・実践できた。

福岡大学法学部 九州地方政策



- 1 日時 令和元年11月26日（火）14：40～16：10
- 2 場所 福岡大学
- 3 参加者 福岡大学法学部 学生70人



【活動テーマ】  
地域愛・シビックプライドの育み

【地域愛×防災まちづくり】  
必ず 地名・地形を確認する！

【防災まちづくりの素地】  
地域コミュニティの育み

【地域住民の「共通の敵」】  
地域づくりには 共感 が必要！

あそぼうさい@イオンモール八幡東

地区防災計画ロールプレイ

仮想的地区防災計画を配布し、避難開始を判断！

みんなであそぼう！  
ぼうさいダンス

「心配性ヒーロー」★

歌詞をよく聞いて  
一緒に踊って  
命を守るために  
大切なことを  
覚えよう！

あそぼうさい@イオンモール八幡東

第2回

令和2年2月22日（土）

R1.11.26  
九州地方政策（防災計画）

NPO法人好きっちゃん北九州理事 入門 貞生

【活動テーマ】  
・地域愛・\_\_\_\_\_の育み  
【地域愛×防災まちづくり】  
・必ず\_\_\_\_\_を確認！

【地域住民の「共通の敵」】  
・地域づくりには\_\_\_\_\_が必要  
【防災まちづくりの素地】  
・\_\_\_\_\_の育み

大雨災害による犠牲者ゼロ！  
みんな de Bousai まちづくり

【防災との向き合い方】  
・知識ではなく\_\_\_\_\_の防災  
【\_\_\_\_\_主体の防災】  
・自助・\_\_\_\_\_・公助

【防災まちづくりの取組み】  
・『\_\_\_\_\_』の作成

【大雨災害犠牲者ゼロ『\_\_\_\_\_』のステップ】

【防災啓発ネタ（例）】  
・防災グッズ贈りゲーム  
・避難リュックの中身は？  
・\_\_\_\_\_ボール投げ  
・災害ボール投げ「災害はどこに？」  
・\_\_\_\_\_ボール投げ  
・災害ダーツ  
・防災ダンス「\_\_\_\_\_ヒーロー」

【災害対応ネタ（例）】  
・\_\_\_\_\_で情報伝達  
・災害伝言ダイヤル『\_\_\_\_\_』  
・伝言ゲーム  
・\_\_\_\_\_町内会の連絡網  
・災害\_\_\_\_\_のしっほ  
・みんなで協力！パケツリレー  
・地区防災計画ロールプレイ

第\_\_回『あそぼうさい@イオンモール八幡東』令和\_\_年\_\_月\_\_日（土）開催！！

昨年度に続き、福岡大学法学部の授業科目の一部の依頼をいただいた。防災政策を学ぶ科目であるが、行政機関からの活動紹介が多く、地域活動・市民活動の分野における実践内容を示すことが目的である。

初めて90分間全て講義形式として実施した。左の要点が穴あきになっている資料に沿って説明。

- ①地域愛やコミュニティづくりと防災まちづくりの関係
- ②住民主体・共助で命を守るまちづくり
- ③遊ぼう×防災『あそぼうさい』の紹介

学生達は、要点について随時記入するなど、熱心に受講していた姿が印象的だった。

防災まちづくりについては、知識ではなく姿勢が重要であること。命を守るには行政（公助）ではなく、自分達（共助）であり、自分達の力で創っていくことができるとお話させていただいた。

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人

# SDGsフェスティバルIN小倉



- 1 日時 令和元年11月24日(日) 11:00~18:00
- 2 場所 船場広場
- 3 参加者 ブース来場者 約240人



地域の未来を考えるシンポジウムの前哨戦と位置づけ参加したフェスティバル。エコライフステージと同時開催のこのイベントは北九大のESDプロモートの学生が主となり運営している。今回はユース(35歳以下)が出展条件。



SDGs目標11:住みつけられるまちづくりをコンセプトに地域コミュニティの大切さを表現したボールすくいゲームを製作した。また、イベントに来場の記念に写真撮影をしていただく際に、北九州の名所・名物カードを吊り上げていただき一緒に撮影していただく。

多くの方に来場いただき、1,000個のボールも売り切れた。



11 高齢化社会  
きんじょ  
ご近所セーフティネット

~ボールすくい~

いざというとき、  
ちか  
すぐ近くにいる(小さなネットワーク)  
きんじょ  
ご近所のつながりはとても安心ですね。  
あんしん  
(そんな地域コミュニティの大切さをゲームにしています)

NPO法人  
好きっちゃん 北九州

漠然とした理念であるSDGsやESDだが、具体的な表現にしていくことで、よりその価値が伝わっていく。地域コミュニティを活動フィールドとする当団体にとって、とても有意義な表現となったと感じる。

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ折尾東一葛原編	1～
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・令和元年初日の出	7
・学校・大学での講演・講座	8～
・地域づくり人材育成講座	12～
・共感を広げる講座・発信	16～

■防災まちづくり事業

○地域を見つめる防災まちづくり講座	20～
○地区Bousai会議運営支援事業	
・大蔵・河内地区Bousai会議	30～
・到津校区Bousai会議	34～
・フォローアップ事業（中島・平野）	42～
○あそぼうさい	
・子ども講座・小学校授業等	46～
・あそぼうさいin北九州@イオンモール八幡東	54～
○防災まちづくりを表現した新たな視点での講座	57～

■地域住民とともに地域と向き合い郷土愛・コミュニティ構築に資するイベントの企画・運営事業

OSDGsフェスティバル	60
○地域の未来を考えるシンポジウム『まちクエスト』～たんけん！はっけん！ぼくらのまち！～	61～

講座・イベント：59回 活動対象：6,564人 参加メンバー：377人

## 『まちクエスト』決起集会



- 1 日時 令和2年1月14日（火）19:00~20:30
- 2 場所 ウェルとばた 多目的ホール
- 3 参加者 まちクエスト協力者 39人



毎年、地域活動のノウハウの共有のため北九州市役所主催で「地域のちから報告会」を開催している。今年度は、国（自治総合センター）の採択・助成を受け、拡大実施されることとなり、地域コミュニティの育みに向け、例年の内容から増強されることとなったとのこと。

特に、若い世代の地域コミュニティが希薄になってきていることを課題視し、今回は、小学生ぐらいをターゲットとし、その親子世代向けの「まちの要素で遊ぶ」仕掛けができないかとの依頼があった。

あそぼうさいは、防災を遊びに変え関心の低い層を引き込むことを狙っているが、これについては、「まち」というものをゲームや体験で表現し、このイベントを通じて、地域やコミュニティへの視線や完成を育むことを目指す。

様々な分野の方々にご協力いただき、多ジャンルのワーキンググループを設置し、企画・検討を進めている。また、まちブースの実施において、21の団体にご協力いただくよう準備しており、趣旨説明などを含め決起集会を開催した。

各団体とも、子ども達への関わりや、地域コミュニティへの想い入れは強く、多彩なメンバーで良いものを創り上げることができる士気が上がったように感じる。当団体が運営主体となるが、こうして多くの人達の力を借りて進めていきたいと感じた。

若い世代の地域コミュニティへの巻き込みの方策については、ずっと検討されてきた課題であるが、こうした子ども達への遊びに変化させた取組みは極めて珍しく新しいものである。是非、成功モデルとさせたい。

## 『まちクエスト』事前説明会



- 1 日時 令和2年2月1日（土）18：30～20：00
- 2 場所 ウェルとばた 多目的ホール
- 3 参加者 まちクエスト協力者 64人



様々な人たちが、それぞれの分野で、子ども達へ「まち」の想いを表現する！一緒に体験や遊びを通じて、まちや人のつながりを感じてほしい！  
そうした想いを真ん中において、当日のまちクエストを迎えます！

いよいよ一週間前！当日の流れや注意事項を確認し気持ちを揃える集会となりました。

これだけの大きな企画をつくるにあたり、当団体のみではとても対応しきれず、多くの方々に共感いただき協働していくこととなった。同じ目標に向かい、一緒に取組んでいくことができているように感じる。

- |                     |                                  |
|---------------------|----------------------------------|
| ●ガイドボランティアサークルゆう・あい | ●認知症草の根ネットワーク                    |
| ●若松TERAKOYAプロジェクト   | ●東朽網校区「男のよか余暇塾」                  |
| ●聞き書きボランティア「平野塾」    | ●遊びの達人 宮崎航二                      |
| ●企画X（きかくっす）         | ●北九州ESD協議会                       |
| ●K I D ' s work     | ●地域力アップセミナー-H29年度卒業生【cord - C】   |
| ●牧山ジュニアクラブ          | ●地球人2014 with Bee(地域力アップセミナー卒業生) |
| ●市民カレッジ防犯チーム        | ●西門司校区子ども会連合会                    |
| ●九州ユースワークカレッジ       | ●九州共立大学地域創造学科                    |

協働団体♪

これだけの人たちが、ともに取り組もうとしている。これだけでもとてつもなく大きな成果のように感じる。当日は多くの子ども達に来ていただき、様々な「まち」を体感してほしい。広報ラストスパート！

令和2年2月8日（土）



# ポイントラリーゲーム 「まち」クエスト

たんけん！はっけん！ぼくらのまち！



- 1 日時 令和2年2月8日（土）14：00～16：30
- 2 場所 ウェルとばた 多目的ホール
- 3 参加者 子ども300人、大人150人、スタッフ141人



ウェルとばたに出現させた“まち”。電柱、横断歩道、信号、看板、ポスト・・・

来場した子ども達がこのまちで探険をしていきます。様々な角度から“まち”を見つけていこう！

“まち”には色々な人達がいて、何かの役にたっていたり、困っている人がいたり。

まちに関わる大勢の方々が、子ども達へ“まち”を伝えるために結集し、25のブースを作りました。

好きっちゃんも共立大とコラボしながら、「ご近所セーフティネットボールすくい」「好きっちゃん釣り」

「市政だより配布タイムアタック！」「一階の人を助けてあげて！」「みんなのまち、美しく☆」のブースをつくり、『あそびながら“まち”を感じる』仕掛けとなった。

地域コミュニティへの課題に対し、子ども達に教えるのではなく、遊びを通じて「感じてもらう」チャレンジとなった。予想を超える大勢の子ども達で賑わい、協力者の数だけでもとても多く、「子ども達を温かく迎える」雰囲気がとても良かった。まさに地域の輪・和の根本に触れたように思った。